

救世軍日曜學校學課

明治四十五年後半期

救世軍日曜學校

第三卷

267
906

020376-000-4

特26-736

救世軍日曜學校學課 第三卷 明治45年後半期

山室 軍平/編

M45

ABI-0183



序

先達石黒男爵と話をして居る時のことであつた。男爵が言はるゝには。

久しい以前獨逸に行つて居つた頃、私は度々有名なるビスマルクや、又はモル

トケ將軍などが、日曜毎に基督教の集會に出席するを見て。これは唯世俗の

心を買はん爲の方便であらうと思ひ、宰相たるも亦難ひかな、元帥たるも亦骨

の折れること哉と考へたのである。併しながら私は五六年このかた、其當時の

私の考へが全く間違であつたことを諒解した。私は越後の者で子供の時から祖

先崇拜といふ様なことを教へ込まれたものであるから、今日になつても親の命

日に墓詣をしない、氣が咎めて仕様がなない。私の父は十八日、母は二十八日

に死ましたので、私は其日々に毎月欠かさず墓參をする。それをしないで他

の會合にでも出席すること、何んだか親を麓末にする様な氣持がして苦くて堪ら

ない。そんならといふて、私は何も墓の中に親が居られるとか、又は骨と一緒に

に靈魂が宿つて居るとかいふ様な考へを有つて居るのではない。土は土である。

19

内交

骨は骨に過ぎない。道理はよく、承知しながら、それでも墓參をせぬと気が済まない。こいふのは、児供の時からそんな風に教へ込まれた結果である。宗教は児供の時に吹き込まれたのが一生胸を支配して居り、後から習ふた學問は幾ら道理が優れて居つても、其児供の時から信仰を動かすことが出来難い。此經驗から押して私はビスマルクや、モルトケ將軍の如き豪傑も、宗教上では児供の時から習ふたのが、いつ迄も胸の中を支配して居つたに違ひない。考へる様になつたのである。それらの事を思ひめぐらして私の達したる一つの結論は、何んでも児供の時から早く宗教を教へ込まねばならぬことである。児供を基督に導けば一生基督の事を忘れぬであらう。ごうか一層児供に宗教を教ふる必要を認め、十分其爲に力を盡して戴きたいものである。石黒男爵は此様に物語られた。是は如何にも趣味のある物語である。假令それが教外者の話であるにもせよ、十分謹聽する價値のある説だと思ひ、其儘お取次をして諸君と共に尙一層少年軍及び日曜學校の爲に盡力せん事を希望する者である。(千里生)

救世軍日曜學校學課

下 卷

明治四十五年七月より十二月に至る後半期

七月

ペテロの傳

第一課 (七月七日)

耶穌様の召

(約翰傳一〇三十五至五十二)

(註)

年長者の組にては廿九節から讀むしよるし。

●學課の大主意

私共も色々に救主の召を受けます。併し一度に一つ宛よりほか受けるものではありません。

●諸誦すべき金言

「靈と新婦といふ、來れと、」之を聞く者も來れといへ」
「渴く者は來るべし、願ふ者は價なしに生命の水を飲むべし」(黙示録二十二〇七)

組長への注意。此學課では救主を愛する人は、別に六ヶ敷考へずとも、知らぬ間に自ら進んで他の人にイエス様を信じさせたいとするものであることを、よく感ぜしむるが目的です。使徒達の當時と同じく私の時代にも「私は私の先生のお蔭で救を受けました」私は友達の「お蔭で」といふ様な實驗話をきくこと度々です。

(註) 幼年の部には「」の中だけ暗誦させて下さい。

●緒言

今日からは暫く使徒ペテロの傳を學ぶのですが、耶穌様は世の中に出てお働きなさる手始めに、耶穌様に従つてお手傳をする人々をお募りになりました。今日は

最初の五人のお弟子が、さういふ風に召を受けたかといふことを學ぶのであります。皆其召され方が銘々異つて居り、ペテロも其五人の中の一人でありますが、彼救主の御聲をき、又救主とお話致したのは、此時が初めてでありました。

(例) 組長が新しい組を一つ拵へ様とする。而して新しい子供さんを集めます。組長さんは色々にして子供さんを招くのであります。組長さん自ら「お出でなさい」といつて招くともあります。兄弟姉妹が若くは友達に連れられて来る子供もありません。或は近所の人からきて来る子供もありません。斯ういふ風に皆同じく招かれるのであります。招かれ方には種々あります。

● 學ぶべき教訓 (少年之部)

其一、先生の御蔭で耶穌様に導かれた人(三五至三九)
(イ) パプテスマのヨハネは世に知られた豪い先生で、其お弟子をよく教へ込で置きました。其處で今日ヨハネは其お弟子達に傳へた教の中でも、一番大切な教である「神の羔羊耶穌様を見よ」といふことに就て語りました。ユダヤ人は毎日神殿で罪の爲に羔羊を献げるのを見て居りましたから、ヨハネが「神の羔羊」と申しました時、何の意味でいはれたかといふことが、直ぐ

テロにも知らせてやらうと思つて、急いでペテロの處に行きました。

此ヨハネはヨハネ傳を誓いた人であらふと思ひます。其證據にはヨハネ傳にはヨハネ自身の名が書いてありませぬ。マテスマのヨハネは別人です。其間違へる様にして下さい。(四十)

(勸告) 私共もアンデレを見習ひませう。若し私共が耶穌様を愛し、耶穌様と偕に住ふて居ることならば、兄弟や姉妹にも耶穌様のことをお知らせ申すのが本當であります。

(例話) オーストラリアといふ國の寂しい山奥で十歳ばかりの男の子供さんが「少年兵」の落して居るのを拾つて讀みましたが、大層感じたので、直ぐ歸りて耶穌様に自分の心を話上げました。應て兄弟に其事をお話するに兄弟も救を受けました。二人が一緒になつて父様や姉妹の爲に祈りましたが、其方々も暫くして耶穌様をお祈りする様になりました。お父様は其から散らばつて居る同じ村の人々の爲に集會を始めました。其がもとで後には其處に一つの小隊が出来た様になりました。

(ロ) アンデレの兄弟といふのは其兄で、名をシモンといふ漁夫でありました。既に妻女を持って自分で一家庭を営んで居ましたが、多分何も知らぬ亂暴者であつたでせう。アンデレは種々に勤めて耶穌様の處に連れて來ました。耶穌様はシモンに何と仰しやいましたか。

に解りました。

(勸告) 皆様の先生も此大切な教を皆様に傳へて下されるでせう。先生が「耶穌様にお頼りなさい」と勤めて下さるのは、全く神様の御恵でありますから。皆様も其お勤めにお従ひなされ。

(ロ) ヨハネが「神の羔羊を見よ」と弟子達に申しました結果、二人のお弟子が耶穌様に従ひました。耶穌様は此二人に何を尋ねになつたでせう。此二人は何とお答申したでせう。人は耶穌様の御住居が知りたかつたのですから、其事をお尋ねしました。スルト耶穌様は、「一緒に來て御覽」と仰しやいました。

(勸告) 耶穌様は今でも矢張私共が耶穌様に従はふとする時「何を求むるや」とお尋ねになります。私共も此二人の様に、耶穌様と偕に住ませて頂く様、熱心にお願ひ申しませう。

其二、兄弟のお蔭で耶穌様に導かれた人(四十至四十二) 此二人の弟子は年の若い漁夫で、其名は一人がヨハネ今一人がアンデレであります。アンデレは自分が救主にお目に懸つて嬉しくてたまりませんから、兄弟のべ

「お前は後にはケバといふ名前を貰ふ様になる」と仰しやいました。

(註) ケバといふのはアラマイク語で「石」といふ意味です。ヤシヤ語でペテロといふのと同じであります。此ペテロは後には使徒達の中の頭になりました。靜かな口数の少ないアンデレが此人を導いたのであります。之はアンデレが爲した仕事の中最も大きな働きであります。(繪解を見るべし)

(勸告) シモンが耶穌様の祈に來た時、耶穌様が後々の事まで見抜いておしまひになつた様に、私共が耶穌様に頼る時にも、耶穌様は私共の現在の有様のみならず、後々耶穌様の御助けによつて、どれ程エライ人になるかといふこと迄見ぬいておしまひになります。

(例) きかん氣で無鐵砲な男の子が神様に従ふ様になる。後には神様の爲に他の人には真似の出来ない仕事をなさる様になるかも知れませぬ。又心の變り易いフハクとして居る女の子がイエス様に鍛練して頂いた爲に、賢い婦人となり其快活な様子を見て、多くの人が耶穌様に引つけられる様になるかも知れませぬ。イエス様を離れれば悪い性質が發達して善い性質を傷ぶ様になります。

其三、救主御自身に招かれて従つた人(四十三至四十五)

(イ) 耶穌様は御自身お出かけになつてピリポを尋ね出されました。ピリポが召されたのは、先生や兄弟の御蔭によらず、耶穌様から直々に御聲がかつたので

あります。

(勸告) 今の時代でも斯ういふ風に直接耶穌様がお招きになつて、主の召を受ける子供さんもあります。

(ロ) ビリポが耶穌様に従ふ様になりました結果は、矢張アンデレの時と同じく、直ぐ誰かに耶穌様のことをお話したくなりました。其でお友達を尋ねて行きました。

(勸告) 招かれる時はどういふ風であるにしても、其の結果は同じことであります。自分が召を受けて召に従つた人は、他の人にも救を受けさせたいと思ふ思ひに満されて居るものであります。

其四 お友達のお蔭で耶穌様に頼つた人(四六至五一) (イ) ナタナエルはビリポの話をきいて「何を云ふのだ、あの小さなナザレ村等から、豪い人が出てたまるものか」と申しました。然しビリポは之に返事も出来ねば議論も出来ないで、唯「マア来て御覽なさい。」と申しました。

(勸告) 之は一番よい返事の仕方です。私が何彼とお話するよりも、あなたが自分で来て御覽なさい」と申

すことでもあります。

(例) 或紳士の方が十二年も長い間病氣にかゝつて、どうしても癒らずに居る時、不圖或知らない人が尋ねて来て「私も同じ病氣を病で居ましたが、巴里に居る此やの醫者さんにかゝつて治りました。あなたもいつて御覽なさい」と申しました。紳士は其人のいふ通り巴里にいつて其醫者さんにかゝつた處、直に癒つてしまひました。若し此紳士が先に教へて呉れた人の言葉を馬鹿にしてきかなかつたらば病氣はなほなかつたでせう。

(ロ) 耶穌様はシモンの胸の中を見抜いた様に、ナタナエルの心をも讀んでおしまひになりました。「此人は造飾のない眞實な男だ」と御覽になつたのであります。

(勸告) 耶穌様は今あなたの心を見て「此兒は造飾のない眞實な善い兒だ」と仰しやるでせうか。若もその心直してお頂きなさい。

ナタナエルは前には「ナザレ村等から豪い人が出てたまるものか」と申して居ましたが、目の當り耶穌様を見た時、嫌さは思はず直ぐに信じた。何と大きな信仰ではありませぬか。耶穌様がメシヤであるを信じた許でなく、神様の子であるといふことを知る様になりな

結論、耶穌様は今でも矢張斯ういふ風に一人宛増して行くことによつて、御國をひろげ様としておいでにな

ります。若も耶穌様を愛する凡ての人が、皆それく兄弟やお友達を耶穌様に導くならば、全世界はどれ程速かに神様のものとなるでせう。

●學ぶべき教訓 (幼年之部)

之は幼年にも少年にも、召されて耶穌様に従ふた最初の五人の事を教へるに、最もよい方法であります。即ち黒板に書くか、又は紙で切抜いて手の形を造る。若くは小供さんが自分の手でやつて見ても宜しい。五本の指の一つ一つに、最初の五人の名を一つ一つつけて行くのであります。拇指、之は離れて居つて大切な指です。此話を書いたヨハ子として置ませう。食指、之は兄弟を耶穌様に導いたアンデレとします。中指、之は一番豪いお弟子の一人で、岩の人ペテロ、無名指、之は聖耶穌自身から召を受け、自分の友達を耶穌様に導いたビリビ、小指之はよくバルトロマイといふ名でよばれて居るナタナエルであります。

(例) お母さんから耶穌様のことを教へられた子供もあれば、先生から教へられ、姉さん、兄さんから教へられ、又はお友達から教へられた子供もあるでせう。又耶穌様から直ぐに教へられた子供さんもあるに相違ありません。

●實物教育

之は黒板に書いて幼年の部に教へる教へ方を示したものであります。又次の如く動作で示してもよろしい。其目的はアンデレが兄のペテロを導いたことは、大層な働きであるといふことを教へる事でありませう。



先づランプとマッチを用意して置く。最初に「此ランプを御覽なさい。此儘眞暗な處へ持つて行つても役に立ちませうか」と尋ねる。「役に立ちませぬ」。何故役に立たないのですか。「光が無いからです」といふ様な問答をなし。次にマッチを出して見せる。「小さなものでせう。」擦つて見せて、「これ此通火が出ます。然し之丈ではあまり役に立ちませぬ。直ぐに消えてしまひます。然し」といつてランプに其火を移し、「これ御覽なさい。小さなマッチの様なものでも、

此大きな光明を出すランプに火を点けることが出来ま
す。其通アンデレは静かな言葉の少ない人でした。
併し其兄さんのペテロを耶穌様に導き、此ペテロが大
きな働きをしましたから、結局アンデレも大きな働き
をした譯であります。私共も子供ではありませんが、他
の人を耶穌様に導くことに由て大きな働きをすること
が出来ます」と教ゆ。

第二課 (七月十四日)

救主の召に應ふ

(馬太傳四〇七至二五。五〇一、至十二)

●學課の大主意

私共も皆救主から受けた召に答へて御教を毎日日々
行はねばなりません。

●諸誦すべき金言

「之に曰けるは『我に従へ、我爾曹を人を漁る者と爲
ん』彼等やがて網を棄てイエスに従ふ」(馬太傳四〇九、
二十)

組長への注意。之を實際のこころと思ふやうあなたの組に教へて下さい
弟子達はイエス様を知るこころを覚へましたので、イエス様に従ふ

てそのお手本に習はねばならぬのであります。今もイエス様を愛す
る人は皆その通りしなければならぬのであります。

●緒言

此の前に習ひました事の後にガリラヤで色々の事があ
りました、バプテスマのヨハネは王様の罪を直言しま
した爲め牢屋に入れられて自由を失つた事、
出来なくなり、その弟子達は大抵は家に歸つて普通の
仕事をして居りました、今日はその中の四人のことを
習ふのであります。

●學ぶべき教訓 (少年の部)

- 其一、手で爲した事
- (イ) 日々の務め(十七至二十二) 御覽なさい、救主は
獨りで海邊を歩いてお出でになります、二組の兄弟連
れの漁夫にお會ひなされる。アンデレと兄弟のシモン(岩
の人)とが精を出て網を引て居ります。ヤコブと兄弟
のヨハネ(此の人は前に救主の所で一晩泊りました人
です)とが忙はしく網を繕ふて仕事を手傳ひお父さん
の御用をして居ります。
- (勸告) 忙はしいのは善いのであること、よく服従す

ること、又家のお手傳をする事を知らぬやうな人は
イエス様の御用にも役に立ちませぬ。若し此の兄弟の
人々が情けたり、小言を云ふたり、又喧嘩をしたりな
どして居つたのならばイエス様は決して此の大切な働
きを爲す爲めにお召しなさらなかつたことと思ひます。

(例) 或る金持の老人が町の店で小僧をして居りました一人の少年を
見込みましたので雇主の人々にあつた少年はさうですか尋ねますと
「あの子を使にやりますと他の手代などの半分の時間を用をたして参
ります。他の者を遣はさず子屋へ寄つたり、途中で友達と話をしたりし
て道草を食ひます。けれどもあの春太郎はかりは云ひ付けられた所へ
まっまご行つて直きに歸つて参ります。これだけは大丈夫です」と答
へました。此の人は此の少年の父に手紙を書いて「あなたの子供を私
の所で務めるやう興越して下さるならば、善いやうに取計つて上げま
せう」と申してやりました。そしてその通りして上げました。

(ロ) 御言葉に従ひて凡てを棄てる(二十二) 御覽なさい
此の人々はハツキリと又確かにイエス様の召し給ふ聲
を聞いて、シモンとアンデレとは網を棄て、直ちに従
ふて行きます、ヤコブとヨハネとは父ゼベダイと僕等
とを後に残してイエス様の後について行つて居ります。
(勸告) 丁度その通りに今でも神様の兵士の中で、救
主の召を受けて普通の仕事を止めてイエス様に従ひ、
人を漁る者となる人があります。

(註) 神様は我に従へて爾曹を人を漁る者と爲んご、御命令と御約束
を兩方下さるのであります。これは人が神様に全く従ふのでなければ
は其の人を人を漁る者となすことが出来ぬのであります。即ち爾曹
は止めねばなりませんけれども何の人も皆普通の職業を止めよとの召
を受けて居るさいふのではありません。然しこの人も皆我に従へとの
召を受けて居るのであります。

其二、眼で見たり

御覽なさい。此の人々は救主と共に住み又一緒に方々
へ行つたりして居ります。弟子等の眼に止まるのは如
何なる事でせうか、イエス様がお金を儲けたり學者に
なつたりエライ人になつたりせうとて忙はしくして居
なかつたこととせうか、さうではありませぬ。

(イ) 救主の御憐み(二十三) 弟子等の驚きはどんなでし
たでせう、イエス様の所へ来れば何んな人でも餘り無
學で、物が分らず、又賤しいから駄目だといふことは
ないのであります、何の人も洩れることなく其の深き
御憐みを蒙るのであります。
(勸告) あなたもこんな憐みの心がありますか、それ
とも無學な人や罪深い人を賤めるやうな心でせうか。
(例) アーン大將夫人が子供の時に一人の人が手を縛られ巡査に引
れて監獄に連れ行かれるのを見ました。子供であるアーン夫人はその

人の縛られて居らぬ方の手を握つて監獄の所まで一緒に歩いてあげて、其の人は悪いことをしたのには遠くないけれども誰か倫は其の人の爲めを思ふ方があつたのであるといふことを感ぜしめました。

(ロ) 救主の御方(二十四、二十五) され程悪魔は強くとも、又如何程重い病氣でも、またごんなにヒドイ罪でもイエス様の手で始末出来ぬといふものはありませんね、これでこそ事へ奉り従ひ奉る甲斐のある主であります。

(勸告) 私共も弟子達のやうにイエス様に従ひますなうばそれは世界中で一番力のある御方に事へ奉りて居ることなのであります、イエス様は悪魔のそのしわざを毀つ爲めにお出でになつたのであります、これは心の弱い僕等居る人々の大なる勵であります。

其三、耳で聞いた事 弟子達は子供の時から忙はしい仕事には慣れて居りましたけれども、學者の深い教は受けて居らなかつたのであります、それでも主の仰る言葉を聞いて理由が分かりましたでせうか。

(イ) 幸福になる法(二五九) 分かりましたとも、子供でもイエス様の仰ることは善く分かります。柔和なる

者、心の清き者、矜恤ある者、義を慕ふ者は福なりと聞いて弟子等はごんなにか驚きましたでせう、今までは金持の人、エライ人は福なりと思ふて居つたのであります。

(勸告) あなたは此の教を本當と思ひますか、あなたも此の本當に幸福な人々の仲間にはいりたいと思ひますか、そう思ひなさればあなたもイエス様にお願ひして福の原であるそのやうな善い心にして戴きなさい。

(ロ) 喜ぶべき時(至十二) 何も彼も皆都合よく行き我儘の出来る時は喜ぶべき時ですか、そうではありませぬ。物事が出来にくいし人々が不親切である時にでも喜ぶべきイエス様は弟子等にお話しなされました、そんなことが出来ました事でせうか。出来ました。イエス様が一緒に居て助けて下さつたから出来たのであります。

(勸告) 今でも他の人ならば失望して駄目になつてしまふやうな悲しい苦しい時にもイエス様を愛してイエス様に従ふて行く人は喜んで居ることが出来ます。

(例) 基督信者(天路歷程の中の話)は火の燃えて居るのを見ました、

悪魔は水をかけて消さうとして居るけれども善く燃えて居りました、其の方へ廻つて見ました所その理が分かりました、イエス様は絶えず悪魔の油を注いで火を燃え立てて居なかつたのであります。

結論、私共も此の兄弟等のやうにイエス様の召に奉つて居るならば家に居る時にはお手傳が出来るやうに助け下さいませし、困つて居る人があらば其人を助ける爲に憐れと愛の心を賜はりますし、又私共の心を清めて下さつて喜んでイエス様の爲めに愉快な心を以て困難に堪へることの出来るやうして下さいませ。

● 學ぶべき教訓 (幼年の部)

- 一、海邊でシモンとアンデレとが舟に乗つて陸の方へ網を引いて居る所、ヨハネとヤコブとが激で網を繕ふて居る所
- 二、イエス様が人々を憐れ御力を以て不思議な事をなされるのを見て居る所
- 三、山の片腹でイエス様の御教をよく聞て居る所

(勸告) 私共もお弟子等のやうに善いことをする爲めに

一、私共の手(兩方の手を見せ乍ら)を使ふて學校

- 一、でも家でも精を出しますること
- 二、私共の眼(眼を指し乍ら)を見張つて善い事正
- 三、私共の耳(耳を指し乍ら)を側立て、善い御教

(例) 或る時お母さんが小さい子供さんを電燈にのせて、子供さんのポケットへ手紙を入れて、何んなことがあつても之を出してはいけませんと申して置きました。所が一人の大人の人がオイしそんな桃を見せぬと申して置きました。所が一人の大人の人がオイしそんな桃を見せぬと申して置きました。所が一人の大人の人がオイしそんな桃を見せぬと申して置きました。

● 實物教育

之は教へつ、書き入れても終りに見せてもよし、「ス」の字を書いて、今日の學課の弟子となる名を受けた四人の職業を記し(右の第一行を書き入れ)、キリスト様は弟子達を何うして下さるか仰つたかを記し(第四行を書き入れ)、如何すれば人を漁る者にして下さるかイエス様が仰つたかを記して(第三行を書き入れ)、イ



イエス様に従ふのは如何せればならぬので、網や又これまでの生涯を如何しましたので、と尋ね、(第二行を希き入れ)て下さい、弟子等は第一行の漁夫から第四行の人を流る者となるには、其の間にある第二行と第三行を通過しなければならぬので、と教へて下さい。錠を下ろして居る室に道入るのに錠が一番初めに入用であると同じく、弟子等がイエス様から全き養分を受ける爲めには一番初めに之を致すことが大切でありました。今の私共に教しましても又同様であります。

第三課 (七月二十一日)

耶穌様の教育

(路加傳四〇三十八至四十四。五〇一至十一)

●學課の大主意

弟子等にツライ事や困る事のある時に、救主は苦みを共にして下さいました。

●諸誦すべき金言

「我は心柔和にして謙遜者なれば我軛を負て我に學べんなんぢら心に平安を獲べし」(馬太傳十一〇二十九)

組長への注意。此の事を實際的に教へて下さい、それはイエス様は、その人にでも皆衆を出て衆衆を止めて来よと、又は争の中、何時も隨ち籠つて居れと云ふやうな召をなされるは限りませぬ。却てイエス様の方が私共の所へも出で下まつて共に住つて下さる時に萬事は變つて来るのであります。イエス様は心を養つて戴きまするれば其衆の中を養つて戴く人があります。又仕事をなさる時や商賣をする時に

はイエス様のことがツツナ除けと云ふやうな人もありますけれども、本當に恵みを受けて幸福になりたいと思ひますならば毎日の事何事もイエス様の御助を受けるやうしなければなりません。

●緒言

前の日曜にはペテロが主の御言葉を聞いて網を棄て救主の召に答へ奉つた所でありました、今日はイエス様がペテロの家にお出でになつてお助下さる所です。

●學ぶべき教訓 (少年の部)

其一、ペテロの家に行くイエス様

(イ) 家の中に病人(三八)安息日なんです、イエス様はペテロの家へ招かれてお出でになりました、只今岳母が病氣で困つて居るのです、皆如何致しますでせうか、直ちに救主にその事を申し上げて下さい。

(註) 此の時にペテロはイエス様が病人の腰に寄りかかるとお出でになつたのを始めて見ましたので、何んなに注意して見、驚き、また喜びましたのでせう。

(勸告) 私共の心に救主の靈が宿つて居給ふならば、丁度昔人々がイエス様にお話し申し上げましたやうに人々が困つたことや悲しいことがあらば躊躇せず私共に頼んで来るやうになるのであります。

(ロ) 病人が癒さる(三九) イエス様は如何なさるでせ

うか、その病氣を直して病人を癒して下さいました、モト善くなつて丈夫になつてお客さんに御馳走をして居ります、前とは大變な違いではありませんか。皆嬉しくして有難くて救主がペテロの家によくお出で下つたとそれは、大喜びです。

(勸告) その通りあなたも救主に自分の家へ一緒に来て戴きますならば、病人があつて困つて居る時にはお助け下さいますし又如何にしてよいか教へて下さいます。

(例) 養保連長が年の若い時に、津山の病人を訪れて行き、一杯汲んで上るさ、夜具を押へ付けてあげるさ、窓を開けて上げるさ、頭の髪を後へ撫で付けてあげるさ、お使にいつて上げるさ、そんなやうなことをしてあげましたのであります。

(ロ) 餘所の人々も恵を受ける(四十至四十四) 何故氣の毒な病人等が皆ペテロの家へ詰かけて来ましたのでせうか。(馬可傳一〇三十三) それは救主が居なかつたからであります。イエス様は如何なさいますか。病を癒し、悪鬼を逐出し、銘々それぞれ困つて居ることに、お助けを下さつて居なされる所です。

(勸告) あなたも餘所の人々があなたの家でお恵を受けるやうにして戴きたいと思ひなさいませうか。狭い家であるかも知れませぬけれども、そゝして戴きたいと思ひなされるならばペテロのやうに救主をお招きして一緒にあなたの家で住つて戴くやうに、なさいませ。

其二、ペテロの舟に於けるイエス様

(イ) 舟が空になつて今は用をして居ない(二、三) 二艘の漁舟がならんで見えます。シモンとヤコブの舟とであります、何故今舟を空にして居るのでせうか。何も獲物が無いので失望して皆歸つてしまいましたが、それをして忙はしうに網を洗つて居ります。

(勸告) 私共も屢々失敗して失望致すことがありますが、けれどもイエス様はそんな時に見過して行つてお終ひになりますでせうか、ソコではありませぬ、イエス様はお出で下まつて私共を助け勵まして下さるのであります。

(例) 一人の娘さんが救を受けてから間もなく、つた時でありました。學校の試験の成績が大層悪かつたので失望しました。けれどもイエス様は見棄て給ひませんでした。御衆の爲めにその娘によく勉強する法を教へて下さいましたので、その後は何時も成功しました。

(註) 弟子等は丸で止めてしまつて居つたのでありませぬ、網を流してこれから又やうさ川魚をして居りましたのであります。イエスは、何れも根氣よくやる人を喜んで下さいます。

(ロ) 舟が他の人が恵を受ける爲めに用らる(十二) 救主は今舟へお乗りなさいました。御覽なさい。少し岸から離れば善い講壇になります、その舟の中から人々に説教をなされました、ペテロは今迄これ程に光榮と思ふたことがありません。マア何といふ喜ですか。

(勸告) その通り人の生涯の中にイエス様がお道入りになれば、前にはボンヤリとして用をせなかつた人が今度は其人のお蔭で他の人が恵を受けるやうになります。

(例) 救世軍の女兵士で心の弱い氣運れ勝ちの人がありましたが、其の人のお蔭で人々が恵を受けましたといふことを他の人から話された時に「イエス様は誠に善い御方で私にそんな光榮を賜はりました。私は自分ではイエス様の御足下に跪くにも足らぬものでござります」さ答へました。

(ハ) 獲物が舟に満溢る(四至七) イエス様がこの漁夫等が獲物が取れないで居つたことをお心に止めなされたのでせうか。そうです、其の御命令を聞けば分ります。ペテロは何と答をしますか。「爾の言に従ひて網を下さん」と申して、此の新しき主に服従するといふことを

學んで居ります。何んな漁がありましたでせう。舟に入れ切れぬ程澤山の魚です、今迄一網でこんな澤山取れたことはありませんでした、イエス様はペテロを恵み又商賣をお助け下さる爲めに舟にお乗り下つたのであります。

(勸告) その通りどんな事をして居りましてもイエス様が一緒にお出でになつて助け教へて下さいますなら成功致すのであります。

其三、ペテロの心に於けるイエス様
(イ) ペテロは罪を悟る(八、九) ペテロはどんな事に氣が付きますでせうか。澤山の魚が取れましたので、イエス様の力に驚きましたけれども、それと一緒に自分の心が眞黒で罪深いといふことに氣が付きましたので、こんなエライ御方また主と共に居るに足らぬ者であると思ひました。イエス様はペテロの心が如何程迄悪いのであるか本當の所を御存知なんです。

(註) 多分ペテロは荒っぽい情熱な人で、よく悪い言葉などを使ふて居りましたやうな人でせう。神様のこゝろは滅多に考へたことのないのでせう。そして心の真い所などはソツト下の方に隠れて見えぬ程になつて居つたのであります。

(勸告) ペテロと同じく私共もイエス様を善く知つて来ればくる程自分の罪深いことをハッキリと知るやうになります。悪魔はそんな時に何と云ふて来ますか。「イエス様は餘り善い御方であるから近づくがよい」と来ます、けれどもイエス様は何と仰るか見ませう。

(ロ) ペテロは屬まざる(十) イエス様はペテロを棄て行つてしまひなされるでせうか。そうではありませぬ。その時のペテロの感じて居る事をよく御存知でありまして、罪より救ふて下つて今度は他の人を救ふ人にして下さらうとしてお出でになるのであります。

(勸告) 私共もペテロのやうに自分の心に高慢、利己、悪心などのあることを正直にイエス様に申し上げれば、棄て行いてしまひなされる所か「懼る、勿れ」と仰つて下つて尙も私共に近くお出でなされて、罪に打勝つやうお助け下さるのであります。

(ハ) ペテロ凡てを棄てる(十二) 今度は舟に一杯も魚が取れたのですから、ペテロは前よりはソツト金持になつて居ります故商賣をする爲めに家に居りますでせうか。そうではありませぬ。此の世の得よりもイエス

様の方が貴いのであります、ペテロは儲ける方は他の人の上に上げて自分は救主に従ふて行くことに致しました。

(勸告) 若し私共がイエス様を第一にして居りますならば此の世の物を神様から恵んで戴きましたからとて、その爲に靈魂が善くないやうになることはありませぬ。けれども若しペテロが魚の方が大切と思ふてイエス様を見棄てることになりましたならば、救主から恵んで戴いた物が反對に咀を受ける源になつたのであります。

善く氣を付けて私共は神様から恵んで戴きます物よりも其の恵を下される神様御自身の方を大切に致すことを忘れぬやうに致しませう。

(例) 今ではエライ製造業をやつて居ります英國人ですが、その人が極貧乏な時にその儲けて居る金の中幾らか宛を神様に献げて居りました、その報に神様は始終その身代を殖して下さいました。けれどもその人は前の通りに神様を第一に致して前よりも澤山の金を献げるやうしました。その結果今は神様は驚くほどに其人の靈魂のこゝろにも此の世のこゝろにも恵んで下さつて居るのであります。

結論、ペテロの如くあなたもイエス様に従ふことを始めて居なされるならば、家の人のこと、學校の勉強、仕事のこと、又一番大切な靈魂のことにでも困つて居る

時にはお助けを願ふやうに致して居られますか。イエスは毎日そういふ時にあなたをお助け下さらうとして居なさるのであります。

● 學ぶべき教訓 (幼年の部)

- 一、魚を取るのに使ふて居りました舟が、今は空になつて濱に引揚げてあります。
- 二、イエス様がお出でになつて、舟を講壇にしての上からお説教をなされます。
- 三、舟を沖の方へ出しました、イエス様はお乗りになつて居られます。
- 四、舟が魚で一杯になりました。
- 五、舟がペテロの悔改の座となります。
- 六、イエス様に従ふて行きましたから舟は後へ残されました。

(勸告) シモンの舟の中にお乗なされたやうにイエス

様はあなたの心の中にお出で下さらうと思ふて居給ふのであります、そして今度はあなたを用ゐて他の人が恵を受けるやうにして下さるのであります。

● 實物教育

- (一) 長い紙片を十二に折つて扇風の様にして下さい。
- (二) 「ペテロの家」を書いてその下に輪を書いて下さい。
- (三) 「イエス様は病人を助け、熱病を癒し給ふ、餘所の人々も喜を受けました」と書き下さい。
- (四) 「ペテロの舟」を書いてその下に輪を書いて下さい。
- (五) 「イエス様は舟が遊んで居るのを見給ふ、舟の中より説教をなされ、舟を魚で一杯にし給ふ」と書き下さい。
- (六) 「ペテロの心」を書いてその下にハートを書いて下さい。
- (七) 「イエス様は罪を赦し、助まして下さりました、凡を棄て従ふやう助け給ふ」と書き下さい。
- (八) 「ペテロ」の受けました、イエス様の教育」と書き第二圖の如くして下さい。



少年期若を助まして次の日曜日には銘々自分で同様のものを造つて持て来るやうにさせて下さい。

第二課 (七月二十八日)

耶穌様死に勝ち給ふ

(馬可傳五〇二至四三三)

● 學課の大主意

イエス様の御前では力強き死といふことも力がなくなるのであります。

● 誦すべき金言

「ごしへまで死を呑たまはん」「主エホバはすべての面より涙をぬぐひたまはん」「以賽亞書二五〇八」
組長への注意。ペテロは此の時の教訓を決して忘れることが出来ませんでした、何時でも人の死んだことを聞いたり見たりする時にイエス様はその死といふものに打撃を給ふたのであると思ひ出すやうに此の事を極實際的にあなたの組に教へる機にして下さい、金言の中で「その中は幼年組の誦する所です。」

● 緒言

今日はペテロは尙ほ他の大切な教訓を主より學んで居ります、即ち次の二ツの大切なことで子供の生命の大切であること及びイエス様の死に打撃つ力です。

● 學ぶべき教訓 (少年の部)

其一 幸の家へ行く途中。

(一) 信仰の祈禱(二二至二四) エダヤ人の幸がイエス様の足下に平伏して居ります、娘が死ぬばかりになつて居りますが、イエス様に手を按いて戴けば必ず生ると思ひました、ペテロは何んなに驚きましたでせうか、主がタツタ今潮を渡つて来た計りですが、救主は一人の小さな子供さんの爲めに態々遠い道を歩いてお出で下さるのでせうか。

(勸告) 心の中に救主の御精神を以て居る人は一人の小さな子供さんが恵を受け助けを受けるやう色々な事を喜んでして下さいであります。

(二) 信仰を以て捫る (二五至三三)

「我に捫る者は誰ぞになりましたことは何でしたか。」
「我に捫る者は誰ぞや」と仰るとペテロは(路加傳八〇四至五) 多分イエス様がそんなお尋ねをなさつたから驚きましたと思ひますが、信仰を以て主に捫れば何んな不思議なことが出来るかといふことをまだ知りませんでした。御覽なさい、皆立止つて居ります中に氣の毒な婦人が一人イエス

様の足下に平伏して居ます。私は捫りましたのでござります、そして病を癒して戴きました」と申します。イエス様がその時その婦人に仰つた恵みと安心との御言葉をよく聞いて覚えてお置きなさい。

(註) イエス様は何時でも人が来れば忙はしいからと断りになつたことばありません。如何程疲れて居つても忙はしくも同じでありました。

此にある醫者といふのは私共の知つて居る所では上手な醫者さんではなく呪(マジナイ)をしたり、迷信を教へたりして居つた眞に物のよく分らない人々であつたのです。

(勸告) 今の世でも軍歌を歌ひ、祈禱をし、イエス様のお話を聞き、イエス様のことを何んでも知つて居るやうな人は澤山ありますけれども、未だ一度も信仰を以て主に捫つたことがなく、それ故に其の儘で遠ざかつて終つては善くない人々もあることであります。あなたは救主がお氣付きなさるやうに信仰を以て捫りましたか。

其二、家に着く。

(イ) 家の中へは入ることを許される弟子(三十五至三十七) 十二人ながら皆家の中に入ると一杯になつて迷惑を掛けますから、イエス様にはそんなことは出来ません。

に居らせるよりは獨の方がよいのです、それは邪魔になる許りでありますからであります。

(註) イエス様は偽を見る時にその儘にして居ることは出来ませぬ。本當に涙を流して居るのなら憐んで下さるけれど共人に見せる爲めにやつて居るのはさうして下さらぬのであります。誰でも自分がさうでないのにさうであるやうな眞似をして居り乍らイエス様の御心を喜ばせ奉ることが出来ないであります。

(勸告) 若し主が私共の集會で奇蹟を行ひなさるとしますならばあなたはごちらの方の組につく人ですか。イエス様が一緒に居ることをお喜びになりますでせうか。又はあなたが外へ出でおしまひになる方が聖靈の御働きなされる御都合が宜しいのでせうか。あなたは信じますか。又は疑つたり嘲笑つたりする方ですか。

其三、家の中。

(イ) イエス様の御前(四十) 御覽なさい。イエス様は直ぐに娘が冷くなつて動きもせぬやうになつて横になつて居る寢臺の方へお出でになります、そして娘の手を取上げなさい。ペテロは何んなに驚いたことばせうか。イエス様は病人をお癒しにはなりますけれども

救主は何時でも試に考へ深く又思ひやりの深い御方でありませぬ、三人だけを撰んで一緒に居ることにしました、ペテロとヤコブとヨハネとです。何故ですか。御自分のお氣に入りですからではなくて、此の人々を連れては入る方が他の人々を連れては入るよりも爲めになる教訓を餘計學ぶであらうと思召しになるからであります。

(例) お父さんが佛蘭西語で話をする集會にも出でないのでが佛蘭西語を少し習ひました方の子供さんを連れてお出でになりますのは何故ですか。お氣に入りの方であるからではなく、他の子供さんよりは話がよく分りますし又爲めになることを餘計學ぶからであります。

(ロ) 外に出されました人等(三十八至四十) イエス様が其の家にお着きになりました所が何を御覽になりましたか、金を賣つて泣くことを商賣にして居る人が澤山居ります。泣いて居るけれども本當に悲しんで居るのではありませぬ、その人々は何な振舞をしますでせうか。娘は唯寝つて居る許りである。仰つた時に嘲笑いたしましたのです。救主はさういふ人々を側に置いて事をなさるでせうか。イヤ、その人々を皆出しておしまひになります、疑ふたり嘲笑ふたりする人々を一緒に

も、死人の生命を呼び戻すといふことが出来ますでせうか。イエス様は言葉をお掛けになります、丁度お母さんが朝子供さんの寢て居ますのを起すやうな柔さしい、善い言葉で申されましたけれども、その御命令の御言葉には死といふものさへも叛くことをしませんでした。

(勸告) 今でもイエス様の御前では死んで居る靈魂が生命に返されるのであります、そのお捫りなさつたりすることや御言葉には全能の力があつて奇蹟を行ふことが出来るのであります。今より後イエス様を愛する人は死にましても心配はありませぬ、主は手を取つて導いて永生を得させて下さる故であります、ごしへまで死を呑み給ふたのであります。

(例) 蟬(トンボ)は十八ヶ月の間餘り働かせずドツチかき云へば芋山の様な形で池の底の泥水の中に住んで居るのです。次に水の上には上つて来て、露の身體は死んで何かの草はさつ付けて置かれるのです、けれども其の蟲は死ぬのではなく古い身體を投げ出して飛び廻つて前には出来さうにも見えなかつた愉快な役に立つて又立派な日を送るやうになるのであります。その通りイエス様を愛する人々は身體が死ぬといふことは、これ迄思ひも寄らなかつた新しい生涯に入

(註) イエス様は今日もあなたの手を取つて導いて下さらうとして手を延べてお出になります。力のない冷たい何の役にも立たぬ手でせうか。そうではありませぬ。イエス様の方ある御手を以てあなたの手を取つて戴きなさい。あなたを導いて上の方へ上らせて下さいます。十二歳になる澤山の子供さん達がイエス様に手を引いて載れば今迄は悲しく思ふて居ましたのが喜びと變るでありません。

(ロ) イエス様の御力(四十二、四十三) 二人の親はごんなに嬉しかつたでせうか。又弟子等はごんなに驚き畏れましたこととせうか。ペテロは如何思ひましたでせうか。「死さへも我主の命令に服従するのであるから自分も亦キツト主に服従せねばならぬに違ひない」との何時まで経つても忘れられぬ驚くべき教訓をその娘の子の死んで居た寢臺の側で教られましたのであります。

(註) ペテロはその時の事を何時までも忘れませんでした。後に又他の所で、主と一緒にその後へついて死人の居る室に行くことが出来ま

結論、イエス様を愛する人々は生きることよりも死ぬることでも皆イエス様が御自由になさることの出来る方ある主でありますから、死ぬことは癒るといふことなのであります。あなたはこの大切なことを本當に知つてお出でいますか。

● 學ぶべき教訓 (幼年之部)

箱庭を用ひて次の事をお教へ下さい。

- 一、イエス様は舟から陸へお上りになりました所へヤイロが参りまして小さい娘をお助け下さいと祈つて居ります。
- 二、あなたのお父さんやお母さんもあなたの爲めにお祈り下さいますか、あなたを悪んで守つて下さるやうに神様にお祈り下さいますか、何時でもお祈りして下さる時は極靜にして善くお聞きなさい。
- 三、イエス様がヤイロの家へお出でになる途中で澤山の人が取り巻いて集つて居ります、病氣の婦人がその中を押しわけて來ます。

イエス様はヤイロの家(ボール紙か何かで屋根を平に拵らへて下さい)にお着きになつて、ペテロ、ヤコブ、ヨハネと御一緒に家の中にお這入りなさいませう。

救主の仰つたお言葉、動作、十二の娘が夕飯を食べて起上つて室の中をアツチコチと歩きました時の喜びなどを話せば皆喜びますでせう。生々としたお話をし

て上げて下さい、イエス様は今死んだ人を活かしな

さつたり病氣を直ぐに癒したりはして下さらずとも、イエス様はどの家でも御出でになる家ではキツト子供さん等にお恵とお助けを下さるのであります。

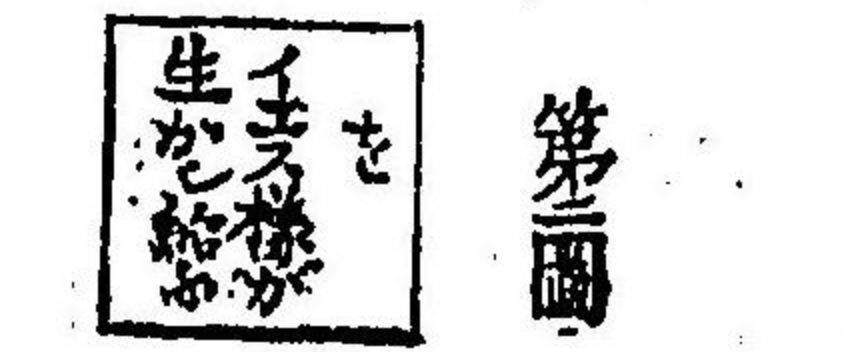
(勸告) 私共はヤイロや又病氣でありました婦人のやうに困つて居ることを皆イエス様に申し上げねばなりません。子供さん達に毎日何か困ることがないかお尋ね下さい、例へば、氣が早いとか、お母さんが病氣であるとか、お父さんが仕事にはぐれて居るとか、學校の課業が六ツかしいとかなど、何んな時にもイエス様にお願ひするやうにお勧め下さい。

(例) 學校の先生が年が五つの子ヨニーの事を救世軍の大尉に話して居られました。その婦人の先生が仰つて次のやうに申されました「ヨニーはあなたの方の集會に行くやうになりましてから善い事を覚えてきました。習字をしたり、算術をやる前に眼を閉じて居ることをよく見ます、イエス様にお助け下さいとお祈りして居るのでせう。兎に角近頃は前よりは善く出来るやうになりました」。

● 繪 解

黒板を用ひて教へて下さい、紙に「イエス様が生かし給ふ」(第二圖)と書いて黒板にピンで止めるやうにし

て置いて下さい。



初め繪の輪廓だけを書いて置いて、話の進むと共に書き入れ(第一圖)「死に勝ちて娘を生返らせ給ふた所へ來た時に左の方に用意して置いた紙を當嵌めれば「辛の娘をイエス様が生かし給ふ」となり

ます。

(註) 二十七節の婦人の癒された話は眞の信仰のあるなしは如何して列るかに云ふよい例話であります。此の婦人はイエス様は癒して下さるとお出ると信じましたけれどもそれだけでなく手を延ばしてイエス様に頼らねばならぬのです、そうせなければイエス様も癒して下さるとお出来ませぬ。

(例) 二人のよく喧嘩する子供さんが救世軍の集會に行きまして瓶を潰すエライお醫者があるといふことを聞きました。二人とも直して頂きたいと思ひました、今度喧嘩しやうになつてきました時一人の方は心を神様の方へ向けて御助けを祈りました。けれども一人はツイ怒つてしまいました、イエス様は生きた信仰を以て手を延べてお助けを祈つた方を喜んでお迎え下さいまして心を落付かせることが出来ました。けれども一人の方には何もして下さる事が出来ませんでした。

第五課 (八月四日)

使徒の派遣

(馬太傳九〇三五—三八、一〇二—二〇)

● 説話の概略

緒言 イエスの周囲に多の病者、困窮者又其他の助なき人々が群集して來ました。

一、イエスは彼等を憐れみ給ひました。

(イ) 彼等は牧者なき羊の如く見えませんでした。(三五、三六)

彼等がなやみ、流離になり、餓え渴き、苦み喘いで居る様は、丁度牧者なき羊の群のやうでした。イエスは之を見て、憐憫と愛と悲痛に心一杯に感ぜられました。

(ロ) 彼等は收穫者なき收穫の如く見えませんでした(三七節) 彼等が御教を聞きたい、御助を受けたいと欲ふて、立つて居る形容は、黄金色に熟した穀物が穂波をうつつて收穫を待つに似て居るのであります。

(ハ) 工人が必要である(三八節)

イエスは此世に一番必要なものは何であると思はれたでしょうか。金錢、家屋、書籍ではありません。人物でありませう。世の人のため勞苦を嫌はぬ男女の人物、「牧羊者」「工人」が一番に必要であります。

二、イエスは使徒を派遣せられました。

(イ) 使徒を選び給ふた(二—四節)

此弟子等は己に幾時かイエスと偕に居て、其事跡を見又其御言葉を聞いて居つたのであります。イエスは其一人々々を召して、各々特別な役目を仰せ付けました。

(ロ) 使徒を派遣し給ふた(五—七節)

いつまでもイエスの側に止まつて教を聞き、事跡を見るばかりでは役に立ちません。自分で働きますならば一層修業のためにもなることですから、イエスは彼等をイスラエルの迷へる羊に遣し給ひました。

(ハ) 使徒に能力を授け給ふた(八—二〇及二節) 彼等が自己の能力で出て行つても無益なことではありません。一人の靈魂をも救ふことは出来ません。然し主は彼等に其働に必要なもの凡をあたへ又言ふべき言

働をなす能力を授け給ひました。

● 摘要

一、イエスは彼等を憐れみ給ふ。

(イ) 牧者なき羊 (ロ) 收穫者なき收穫

(ハ) 工人の必要

二、イエスは使徒を派遣せらる。

(イ) 使徒を選び (ロ) 使徒を遣し

(ハ) 能力を授け

● 重なる教訓

イエスは召し給ふ人々を他人を助くるため用ゐんとせられるのであります。

● 應用

今日の世においても一番に主の求めて居給ふものは、全く神様に従ふて、世の救のために働く人物であります。諸子はそのやうな人になりたいと欲ひませんか。小さい時からでも心切な言や行を以て他人の爲になる人になることが出来ます。

(實例) 或る大きな旅宿に火事があつた。一青年は己を忘れて働き

七人の生命を助けた。しかし火傷をして病院に入れられました。同じ所に居ました一人の人は自分一人逃れ出しましたが狂氣して癪狂院に運ばれ、口癖のやうに「私は自分だけを救ふた」「私は自分だけを救ふた」と申して居ました。

● 幼年學課

本課は稍困難である故「神の使者としての幼きサムエル」といふ題で一の學課を作りなさい。

サムエルが床に寢て居る所、三度まで起きてエリの所に行く話、遂にエリの教へし通をなして神の聲に答へエリに對する神の御言を聞き之を傳へた物語を、平易に且面白く下して下さい。

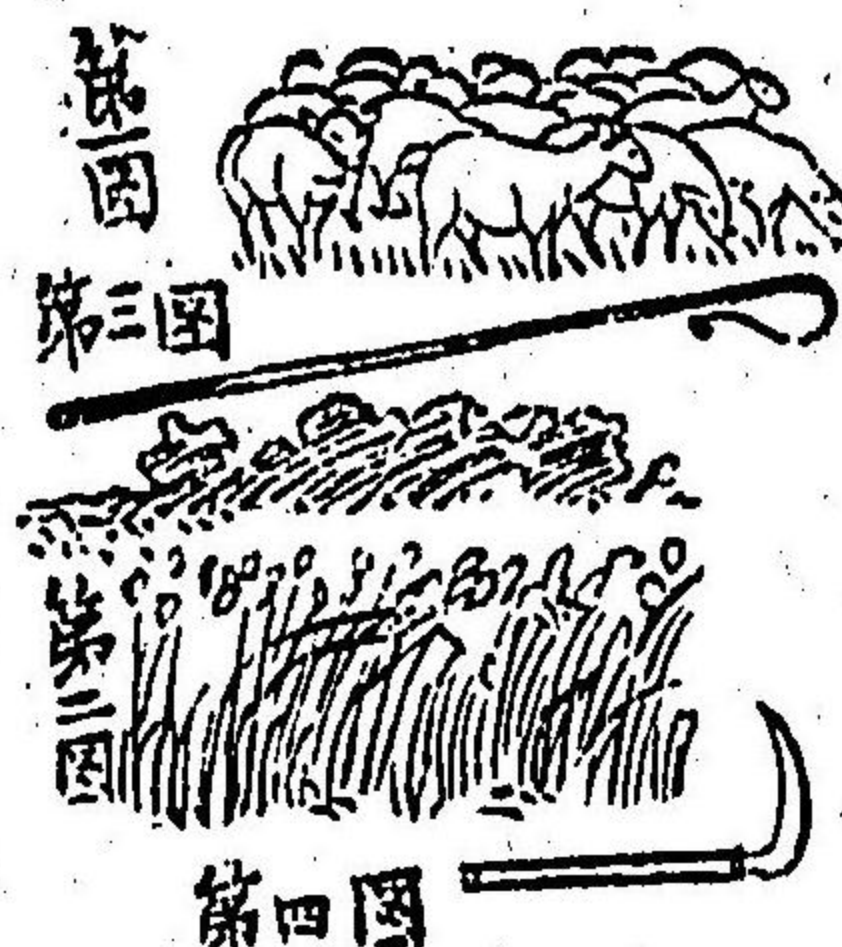
教訓は少なき小供でも神様はめぐんで、神の使者となして下さるのであります。

(實例) 愛子さんは日曜學校の歸途で一人の跛者の老婆が城家の石段に腰掛けて居るのを見ました。近く側に行つて「おばあさん、今日日曜學校でおぼえました聖句をきかせて上げましょうか」と尋ねました。老婆は大そう喜びました。日曜日毎に斯うして居ました。又軍歌を歌ふてあげました。老婆は愛子さんによりまして恐まれ、助けられたのであります。愛子さんは此老婆にさりまして神様の使者となつたのであります。

● 金言

「我またエホバの聲をきく曰く、われ誰をつかはさん

誰かわれらのために往くべきかと、そのとき我いひけるは、われこゝにあり、我をつかはし給へ」
(以賽亞六。八)



黒板や紙片を用ふ、イエスは此世の人々を見て何に喰へられたか。牧者なき羊、第一圖。其外何に比べられたか。収穫を待てる野、第二圖。イエスは其弟子を何の爲めに遣されたか。羊を牧はせるため、第三圖。収穫をなせるため、第四圖。

第六課 (八月十一日)

ペテロの主 (馬太傳二四〇一四—三三)

● 説話の概略

福音 ペテロは主と偕に過す一日は一日と一層よく主を知つて來ました。今日は非常に奇蹟なる經驗を見まして、イエスが如何なる御方であるかを覺る話であります。
一、彼がイエスに従ひし時(二四—一八節)

● 繪 解

寂寥き山地の日暮頃、幾千と數へる人々はイエスを圍みてまだ去りません。イエスは何と命じ給ひましたか。彼等を追去らしめず、之を集めました。そしてパンと魚の小さな籠を持つて來させました。弟子達の信仰は試みられたに相違ありません。イエスは間違をなさつて居るのではないか。然しペテロなり他の弟子等は、何を爲さるのであるか疑ひながらも、主に従ひました。
二、ペテロは他の人々に食を配つ(二九—二二節)
ペテロの驚愕を想像して御覽なさい。主に従ふたことを如何に喜んだでしょう。彼は主の御手よりパンを採り、他の弟子等と諸共に人民に腹一杯食はせることが出来ました。
三、彼がイエスを信せし時(三二—二八節)
是は夜の事でありませぬ。使徒等は眞暗い中を漕いで居り、イエスは崗に止まつて居給ふた。彼等がイエスの水の上を歩んで彼等の方にお出になるのを見た時の驚懼は如何でしたでしょう。ペテロは確にイエスであることを認め舟を下りて、逆巻く怒濤の上を踏んでイエスの所に行かんといはしました。

四、彼は水上を歩みました。(二九節)

悪魔はペテロを引よめやうといはしました。「きつと溺れるぞ、今迄そんな事をした人はない」などと。然しペテロの信仰は悪魔の疑に打勝ち、主の方を眺めて其方に歩み出しました。

五、懼れた時彼はイエスに叫んだ(三〇節)

悪魔は申します、「お前は何をして居るか、危いではないか」と。ペテロは其眼を救主より他に轉じました。其時直に沈みかけました。彼は誰に救助を求めましたか。大なる信仰がありませなんだが、小さな信仰がありました故、彼は助を其友人に求めず、其主に求めました。

六、彼は支へられた(三一—三三節)

イエスは如何にせられたか。直に手を以て彼を執へ、慈愛に溢れた口調で「若しお前が余を信じて居つたらば決して沈まぬものを」と曰はれました。二人一所に舟に歸りました。ペテロはさう考へたでしようか。「私は主のため、此後再び危険を冒すことを恐れまい、たとへ自分が沈んでも主は私を助けて下さるから」と。

● 摘 要

- 一、ペテロがイエスに従ふ時
彼は他の人々に食をあたへた。
- 二、ペテロがイエスを信じた時
彼は水の上を歩んだ。
- 三、懼れてイエスに叫んだ時
彼は支へられた。

● 重なる教訓

私共の生涯中に遭遇します困難や窮乏は、救主が私共信する者のため如何なる大なる事を爲して下さるかといふことを教へるものであります。

● 應 用

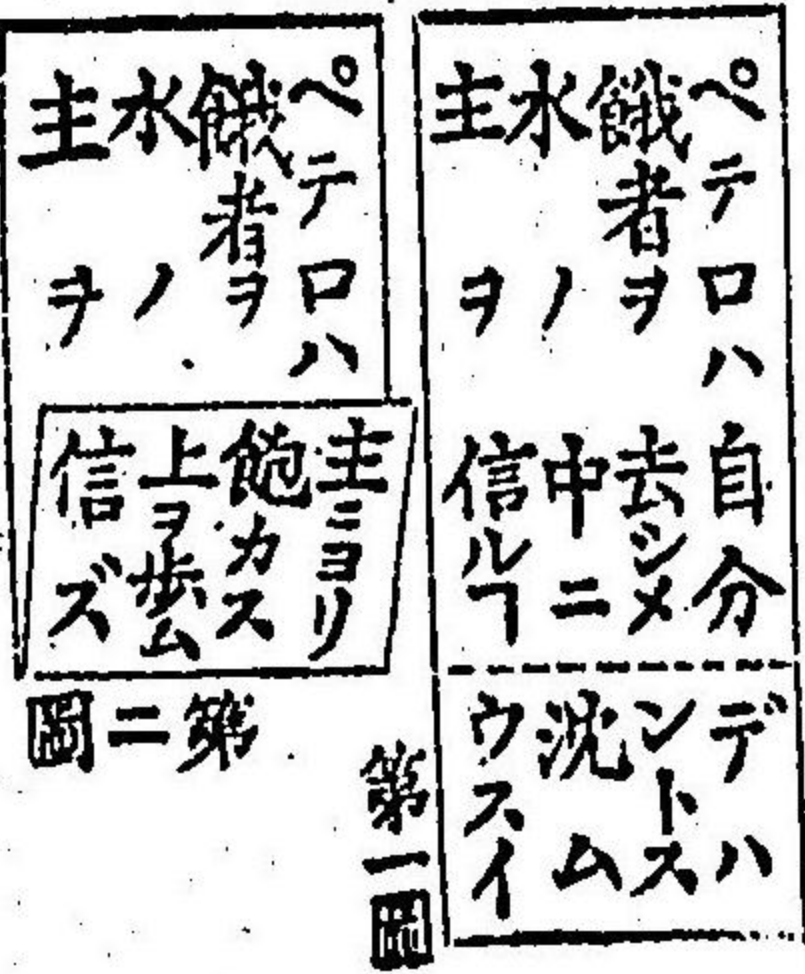
時々主は私共に非常に困難な、出来そうにない事を命じ給ふのであります。然し其に従へば主は之に堪えるめぐみと能力をあたへて下さるのであります。

(實例) 大將がはじめてロンドンの貧民窟で働く決心を其妻に附られた時、二人の間には幼き小供が數人ありましたが、妻は答へて「ただ神様の命じ給ふ通りになさい、今迄も主を信じて支へられて來ましたから」と申されました。間もなく神は不思議に友人を起して此働を自給するやうに助け給ひました。
此話より又學びますことは私共が試みや困難のため沈みかけます

時、少しも躊躇せず直に主に助を求むべきことでありませぬ。

●幼年學課

適當な身振など用ゐて、イエスが一少年のお辨當を探りて澤山な人々を食ひ給ふたを教へて下さい。(約六。八、九)五ツのビスケットと二の小さな魚(紙)を入れた籠を携へておいで下さい。少年が其食物を捧げること、一同が食事をすること、後で殘の屑を拾ふことなど、身振をまて説明して下さい。一人の男子を撰んで少年の役をなさせるなどよろしい。教訓は食前に感謝をすること、食物などを空費せないと、又最も善いものをイエスに捧げると杯であります。



●金言
「己が神を知る人々は能力ありて、事をなさん。民の中の罪悟者は衆多の人を教ふるあらん」。(但以理二〇三二三)

●繪解
紙片をより其上に第一圖の如く書き、次に黒點の所より折り其表

に第二圖の如く書くべし、左部を手で隠して質問しながら、順々に見せて行けば宜しい。

第七課 (八月十八日)

讃められ又叱らる (馬太傳二六〇三一二八)

●説話の概略

福音 ペテロは今や教主と大分長らく借に居まして、其御名の爲に働いて居ましたが、今日は彼が主に質問をうけ、祝福せられ、そして又譴責められたお話を學びました。

一、主の大切な質問(二三一―二五節)

(イ) 世間の批評(二四節)

イエスは世の人に種々に評判せられて居ました。或人は彼はパンテスマのヨハネであるといひ、或はエリヤ、或人はエレミヤまた古の預言者の一人であると申して居ました。

(ロ) 主は弟子達の信仰を探り給ふ(二五節)
汝等は我最も善く知つて居る筈である、我を誰と思ふか、と尋ね給ふた。

(ハ) ペテロ祝福せらる(二六一―二〇節)

ペテロは大膽に答をいたしました。之は彼が人から教へられていふたのではなく、神様から直接に示されたことを申したのであります。主は大そうお喜になり、ペテロを福な者だと仰せられて、此信仰の上に我教會を建設すべしと命じ給ふた。

二、主の大なる目的(二二節)

(イ) イエスは其大目的を弟子に告げらる(二二節)
今や使徒等はイエスの神の子であることを知りました故、彼が此世に臨まれたのはたゞ救へ癒しするためのみでなく、罪人のため其生命をあたへるためであることを教へはじめ給ふた。

(ロ) ペテロの失策(二三節)

ペテロはたい人情を思ふて、神の事を忘れて居ました、それで主を引とめ「主よ宜らず」と申しました。

(ニ) ペテロ譴責せらる(二三節)

主は前にはペテロの言を讚め給ひましたが、今は反顧て、大に叱り「サタンよ後ろに退け」といはれました。

●摘要

一、主の大質問

(イ) 世間の評判。(ロ) 弟子の信仰。

(ハ) ペテロの答。

二、主の大目的

(イ) 之を使徒に告ぐ。(ロ) ペテロの失策。

(ハ) ペテロ譴責せらる。

●重なる教訓

イエスは其弟子に對し、正しきは獎勵し、悪しきは責め給ふ。

●應用

- 一、キリストを信する私共の信仰がたゞ書物で讀み、説教で聞いたからといふだけの理由では宜しくない。實際に自分の心霊に経験することが必要であります。
- 二、私共は他人が神様のために献物をし、骨折をし働くのを妨げてはなりません。又肉と世俗と悪魔と時には自分の親しき者が私共の奉事を妨げやうといたしますから注意せねばなりません。
- 三、譴責せられた時惡意を持ち、腹を立て、はなりません。謙遜な心で之をうけ過を改めねばなりません。

●幼年學課

イエスの海上を歩み給ふた事につき學課をあたへよ。
(馬太傳一四。三三三三) 大きな皿か井に水を入れ玩具の舟を浮べ、浪をこしらへて説明して下さい。
弟子が暴風に遭ふて困難した事、イエスが海上を歩みしこと、ペテロも水上を歩み、沈みかけ、イエスに救はれ、舟に歸り、安全に岸に着いたこと。
教訓は私どもが誘惑に遭ふて、敗けそうになつた時、イエスに叫び求めますならば彼は私共を助けて下さるのであります。

(實例) 少年兵の兒童さんの學校で大きな兒童に救世軍だといふて、察められました。堪忍しきれないやうに感じました。小聲で「イエス様、私を助けて下さい」と申しました。するさ腹を立てずに済み、他の兒童も去つてしまひました。

●金言

「爾曹を導く者に循ひ服すべし」(希伯來二三。一七)

第八課 (八月二十五日) (決心日)

●燈せる蠟燭 (馬太傳五〇一四一六)

注意 此は決心日なるを以て、別に學課をせず。悔改座に、導く目的を以て次の説話の概要を研究し、或は便宜上之を短く

し又長くして話すべし。
司會者は蠟燭三本と燭臺及びマッチを用意すべし。話しながら要點を黒板に書くべきこと。

●記憶すべき聖句

「人の靈魂はエホバの燈火なり」(箴言二〇。二七)
「私共は皆此の蠟燭と燭臺の如きものであります。蠟燭は私共の靈魂で、燭臺は私共の肉體のやうなものであります。何ちらの方が大切ですか、蠟燭ですか、燭臺ですか。蠟燭、その様に靈魂は肉體よりも一層大切であります。」

(例話) 此兒童さんの中に兄弟姉妹を失くした人があつて、肉體は墓に埋められましたが、靈魂は天國に行つたでしよう。

火を點さない蠟燭は無用
(火を點さない蠟燭を見せ)、若し室が暗黒でありますならば、此蠟燭は此儘では役に立ちません。どうせなければなりませんか。そうです、火を點さねばなりません。そんなら此は自分獨りで火を點しましょうか。否、誰か、火を點けねばなりません。(司會者は此時之に火を付ける)
此と同じく私共の靈魂も實に貴重なるものであります

其儘では何の役にも立ちません、神様の聖靈に由つて救の火を點せられねばなりません。此の大なる御事は救を申しまして神御自身のなさる事でありませぬ。イエス様が光で居給ひます。あなた方は神様に此救の火を心に點けて頂くやうに御願ひいたしましたか。未だならば今日其をなさい。

點火した後は輝く
此小さな蠟燭は四方に光を放つて居ます、殊に暗き場所では一層光輝を發するのであります。若し此が「暗い所では輝くことが嫌いだ」といふたならば何と愚かなことでしょうか。暗黒な場所に一層必要なのであります。其と同じく私共も若し救はれて居ますならば、たとへ暗い所に居ましても周囲の人々に光を放つものであります。
私共が光を放つ三の方法があります。
私共のクリスチャンとしての生涯により、——親切、眞實、服従、喜悅、愛、柔和、謙遜など。
私共の證言により、——家庭で、學校で、集會で又至る所でイエスが私共のために爲し給ふたことを告げ

知らせて。
イエスのため働くことに由り、——少年兵や「どきのこゑ」を賣り、集會に新しき兒童を誘ふて來、軍歌を歌ひ、集金し其他の事により。

他に光を配けても損はない

(他の蠟燭を已に燈せるもので點火せよ)
此の蠟燭は他の蠟燭を點火したから、光が悪くなつたでしようか。否、室が一層明らかになりました。救はれて居ます兒童は斯の如くに他の未だ救はれて居ないものに光を配けねばなりません。大將は十五歳で救はれ八十三歳の今日まで、七十年の長い間此事をなして居られるのであります。幾萬の人々に光を配たれて居るのであります。あなた方は如何ですか。救はれて居らないならば勿論之をなすことは出来ません。救はれて居ましても罪が殘つて居れば十分に輝くことが出来ません。(箱の中に何か小さな物體を入れて光が妨げられるやうにせよ)
然し罪を除きますならばはつきりと輝きます。(小さな物體を取除け)

九月

第九課 (九月一日)

イエスの變貌

(太一七〇—一七三 彼後二〇三—一八)

● 説話の概略

● 説話の概略
此三人の使徒は先にもイエスの死人を甦らせ給ふた奇蹟を見ることを許されましたが、今また其にも勝つた不思議なる事件を見させられました。

一、撰ばれたる三人
何故特別に此三人の者が撰ばれて行つたかといへば、彼等の後生涯に於きまして、之等の實驗が彼等を強め慰め勵ますべき必要があつたからであります。

(イ) イエスの容貌の變りし事 (馬太傳一七〇—一七三、三節路加傳九〇—九三)
イエスが祈禱し給ふた時、其靈魂の榮光が其體を透して輝き、其顔目の如く輝き、其衣は雪の如く白く光りました。そして長い間前に世を去りましたモーセとエリヤが現れましてイエスと偕に語りました。

又光に蓋をしまするならば、光は消えてしまします。ゴッパで蓋せよそのやうに救はれた兒童は、其を隠くしてはなりません、例へば「私はイエス様を愛するけれども學校ではかくして居ましょう」などといふてはならないことです。
若しあなたの蠟燭がまだ燈されたことがなく、燈されても餘り善く輝いて居ないのであり、又或は消えてしまつて居ますならば、イエス様に只今助けて頂きなさい。(悔改座)

(例話) アメリカの國を治める人を大統領と申しまして時を定めて大統領が入れるのであります。ガーフフィールドと云ふ人が大統領として居つたときあります。サテ一人の青年が申して勉強をして居りますと友達が來まして料理屋へ遊びに行かうと申します。その青年が誘はれて行く途中で就教所の前を通りますと「君の價は死なせよ」と書いてあるのを読みましたそこで考へました自分が行つて居る所は悪い所でありまして行つてはならぬと思ひ云ひつらつたのでしようけれども友達に断つて行くことを止めました。後に大統領になる程善い人又賢い人になりました。大統領になつて後或る時ガーフフィールドは監獄に參りました時一人の人が話しかけて來まして「私はあなたをよく知つて居ります」と申しまして、丁寧に挨拶する者がありました。あつて見ますとその人は前に青年の時に料理屋へ行つた人で今は監獄に入れられる程になつて居りました。

(ロ) ペテロの失言 (四節)
ペテロは天の榮光を見たり、又モーセやエリヤの如き人物と交ふことは大なる喜悅であると思ひました。それでペテロは樹木の枝を折り小舎を作り、永く山上に留りたいと申しました。しかし之は無道理な考でありました。イエスは救の事業を中止して山上に留り給ふ筈はないのであります。

二、神の命令
(イ) 天よりの聲 (五節)
ペテロがかくいふて居る時、雲かれらを蔽ひ、聲雲より出で、「此は我旨に適ふわが愛子なり、爾曹これに聞くべし」といはれました。之は勿論神御自身の御聲であります。イエスはモーセやエリヤより遙か偉大な御方で、神の旨に適へる神の子であるといふことを深く使徒等に感銘せられたのであります。

(ロ) 人に之を告ぐる勿れとの警戒
使徒等は此御聲をき、大におそれ倒れ伏しましたがイエスは彼等に手を按ぎ、おきよ懼るゝ勿れ、といひて、之を拔け起して下さいました。そして山を下る時、

イエスは彼の死より甦るまで之を人に告げてはならぬと命じ給ひました。弟子達にはまた之等の意味が十分に解つてをらぬ故、一般の人々に告げては誤解したる希望を起す者があつてはならぬとて斯く命じ給ふたのであります。

(ハ) ペテロ之を記憶す (彼後後一。一三—一八)
多年後ペテロは已に老人となり、今や主のため其生命を捨てんといたして居る間際に「我儕は親しく其大なる威光を見し者なり」われら彼と偕に聖山に在し時この天より出し聲を聞き」と申しました。屢々試練誘惑困難の時、彼は此山に於ける出來事を記憶して、慰籍を得、新しき勇氣を得たことでありましたでしょう。

● 摘要

一、撰ばれたる三人
(イ) イエスの變貌 (ロ) ペテロの失言

二、神の命令
(イ) 天よりの聲 (ロ) 人に告ぐる勿れとの警戒

● 重なる教訓

汝の機会を最も善用せよ。イエスの黙示を尊重せよ。

●應用

一、私共にも時々何の意味か解し難き経験に遭遇する事があります。然し時至りて其意味が明かにせられます。

(實例) お母さんが水仙の根を瓶に入れて、秋にある暗い所に納めておいた。其根は「なぜあんな暗い所へしまつておられるの」とききました。「あれは根を出させる爲めに必要ですから」と母は答へられました。後に至り小さい根が瓶一杯になりました時、母は之を取出して日當の善き場所に置き、成長し美しい花を咲かせました。

●幼年の部

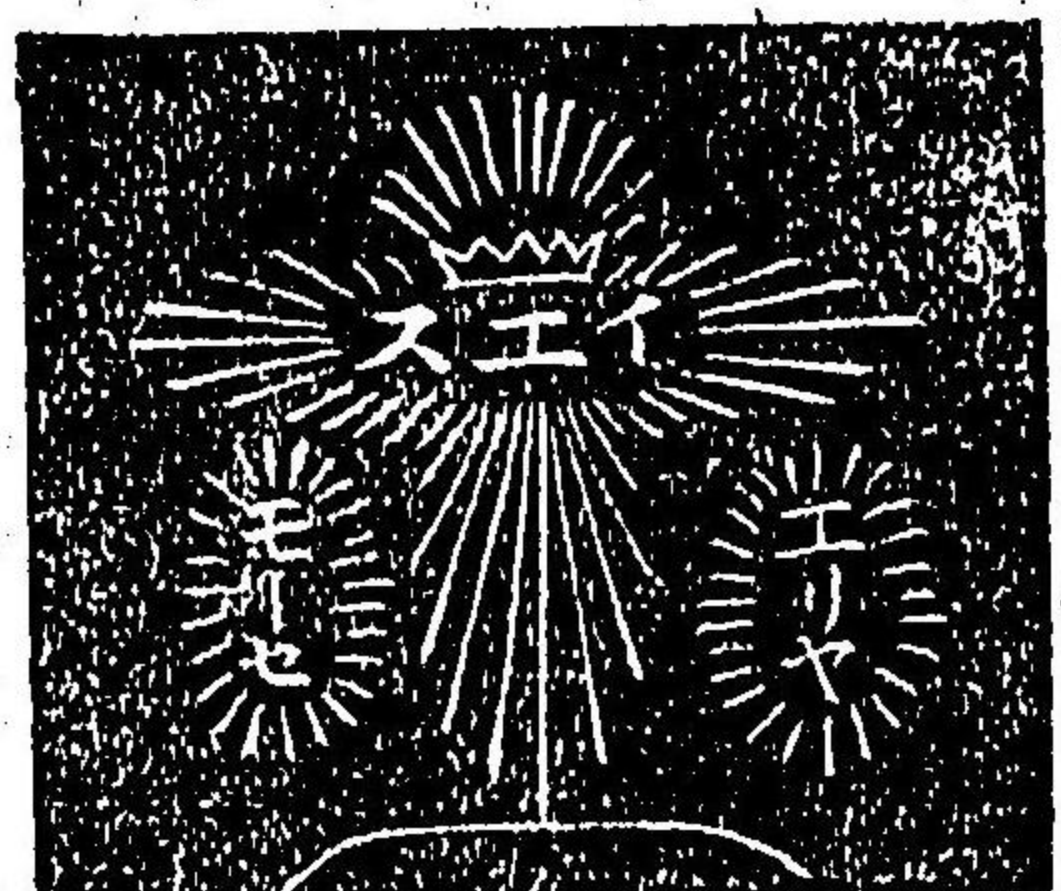
此學課は困難でありますから、イエスが小さき兒童を祝福せられた話をして下さい。箱庭を用ひて、
一、イエスが多の人々に圍まれ、彼等を教へて居給ふ。
二、お母さん達が幼兒を携へて参りますが、弟子達に阻められました。
三、イエスは弟子を叱られ、幼兒等の上に御手を載せて彼等を祝福せられました
四、皆さんは父母につれられて、又は一人でイエス様の側に來なければなりません。來ればイエス様は皆さ

んを恵んで下さいます。

●金言

「爾曹イエスを見ざればも之を愛し、今見すといへども信じて喜ぶ、其快樂は言がたく且榮光あり」
(彼得前書一〇七一九)

●繪解



イエスがローゼ、エリヤよりも偉大なる御方であることを表すため注意下さい。
三人の會話はイエスの十字架の死につきてあつた故、イエスの字のあとに十字架の影をつけて下さい。

第十課 (九月八日)

ペテロ人の罪を赦すべきを學ぶ
(馬太傳一八〇二—一三五)

●説話の概略

福音 主はペテロを嚮導者の一人となさんと思召されて居つた。然るに嚮導者として人の罪を赦す精神なき時は其役目を果すことが出来ません。

一、ペテロの質問 (二二節)

當時ユダヤ人の教によれば三度迄兄弟の罪を赦せば、此で充分であると教へてあつた。ペテロは幾分か主の御精神を味はひ三度では充分でない、しかし七度も赦すならばそれで充分であらうと考へたのであります。

二、イエスの答 (二三—三五)

然るにイエスは是を以て満足し給はず、四百九拾回迄も即ち無限に赦せよといはれました。そして只ペテロのみならず、外にもやはりペテロのやうな精神を持つて居る者のあることを御承知でありまして次の譬喩を語られました。

(イ) 大なる負債 (三三—三五節)

負債とは何ですか、他人に返却す義務あるものです。某國の官吏で大金を取扱ふて居つた者が、國王に献納すべき大金二千萬圓程を私消して居ました。彼は之を償ふことが出来なな故、古代の風習に由りて、彼を其妻孥は奴隸として、幾分か其借財を償ふべしと命ぜられました。

(ロ) 赦罪 (二六、二七節)

●摘要

- 一、ペテロの質問
- 二、イエスの答
- (イ) 大負債 (ロ) 赦免 (ハ) 小負債
- (ニ) 入獄

●重なる教訓

イエスの眞の僕人は人の罪を赦すべきであります。

● 應用

一、神は如何なる大罪をも相當な態度を以て懇願すれば救し給ふのであります。

二、同時私共は人が私共に對して犯す罪を赦さねばなりません。之もたい言葉です。のではなく、心から赦すのでなくてはなりません。

(實例) 或る亞米利加印度人の酋長が敵のたみ殺され其女は手を斬り落されました。其女は成長して後イエスを信じた。或る日自分の家へある疲れ果てた旅人が音づれ食物を乞ひました。熱視すれば自分の敵、親の敵でありましたが、命じて食物をあたへしめ、彼の眼前で手先のなき腕を見せながら「お前さんが私を斯うしたのですよ。しかし私はイエスキリストによりお前さんを赦すことが出来ます」と申しました。

● 幼年の部

ペテロの質問、イエスの御答及び其解き明の話をなせ。大負債は大きな袋のやうなもので表し、小負債は一錢銅貨で代表せよ。そして一番行儀の善い兒童を國王とし、他の兒を負債ある僕などになして眞似事をなさするも宜しい。

教訓は、凡て私共の根性悪や悪戯は神様に對する負債のやうなものであります。私共は之を支拂ふことが出

来ません。しかし神様は御願すれば救して下されます。又神が私共を救して下されますから私共も他の兒童が私共に悪い事をする時に、之を赦さねばなりません。

(實例) 一人の男の子が其誕生の御祝に春ちゃんも招んで上げて下さい。お母さんに願ひました。お母さんは驚いて、春ちゃんも前の友達です、と尋ねました。いゝえお母さんが此頃私に悪口申しましたから、私はあの兒に心切をして上げたのです」と答へました。

● 金言

「互に仁慈と憐恤あるべし、キリストに在て神なんぢらを救し給へる如く爾曹も互に赦すべし」。

(以弗所書四〇三二)

● 繪解



王は此人に何を求めましたか。拂(金を給く)拂ふことが出来たか、否、然らば如何にしましたか。牢獄にはいることを命じました。それを懇願して助けて貰ひました、放されたか(話しなから引り)次に誰が参りましたか。彼の友人、彼は其友達に何を求めましたか。拂ひ(金の數を二三にせよ)友人は何を願ひましたか、赦して下さい、しかし彼は何と

いびましたか、半にはいれど。(話しながら書く)

第十一課 (九月十五日)

謙遜の徳 (約翰傳二三〇、二一七)

● 説話の概略

緒言、ペテロは今迄に幾度もイエスの愛と憐憫を見る機会をあたらされました。(其岳母に對し、ヤイロの娘に對し、餓えたる群衆に對し、又ペテロ自身が沈みかけし時になど)今日はペテロが主の謙遜につき學ぶ話を研究いたします。

一、實物教育 (二一五節)

使徒等の驚愕は如何ばかりでありましたでしよう。彼等の師また主が其衣を脱いで、水を注ぎ、手拭を取り給ふた。何のためにですか、彼等の塵芥まみれな、汚ない足を洗ふため、之は當時の奴隷が富者の家になして居つた仕事であります。多分誰一人言を發す者はなかつたでしよう。悉な驚いて見て居ました。

二、實物教育は除々に解せられた。

(イ) ペテロは當惑した(六節)

多分幾人かの使徒等は救主が彼等の足を洗ひ給ふた時無言で腰かけて居つたのでしよう、ペテロはどういふでしようか。其主が自分の前に来て、跪いて其足を洗ひ給ふを許すでしようか。

(ロ) ペテロの決心 (七、八節)

救主は無言の中に「お前は今此理由を知るまいが私に洗はしなさい、後に解りましようから」といはれたのでありました。ペテロは何と答へましたか。彼のいつもの性格が亦現れて「なんぢ斷て我足を濯ふべからずと申しました。

(ハ) ペテロの願望 (九一一節)

イエスは何と答へ給ふたか。「若し我爾を濯はすば爾は我と干渉なし」と、そこでペテロは早速、そんならばたゞ我足のみならず、手も首も一體に濯ふて下さい、と願ひました。

ペテロは氣早な性質で、時々無智のため失敗しますが直ちに過失を改める精神がありました。

● 摘要

一、實物教育

二、實物教育は段々に解せられた、

(イ) ペテロの當惑 (ロ) ペテロの決心

(ハ) ペテロの願望

●重なる教訓

イエスの僕は其主の如く謙遜でなければなりません。

●應用

イエスが弟子達に教へんとし給ふた教訓は、
(一) 日々イエスの血汐により潔められ、汚なく保たれ居るべき必要、
(二) 私共の助を求めて居る凡人々に奉事する上にイエスの如き同じ謙遜なる精神を以て居ることの必要でありました。

(實例) 或小女が隣人に病人がおりますと之を介抱したり慰めたりするのが好きでした。しかし隣家の嬰兒を守り上げて上げたり、又お羊の皮をむいたりすることは嫌いでして上げませんでした。

●幼年の部

イエスが弟子達の足を濯ひ給ふた話をせよ、イエス様ののたまたまた地方では草鞋をはいて居まして、足を濯ふのは其家の奴隷か或は年少者の仕事でありました。使徒等はみな自分等は偉い者と思ひ他人の足を濯いませんでした。それでイエス御自身が彼等の足を洗はれ

ました、そして私共に其の如くせよといはれました。
注意 嬰兒でも時々傲慢になるうさいたすものであります。故に此事より謙遜の徳の大切なことをよく教へて下さい。

●金言

「我は爾曹の師また主なるに尙なんぢらの足を濯ふ。」

「爾曹もまた互に足を濯ふべし」我なんぢらに例を示せり此は我なんぢらに行し如く、爾曹にも行しめんが爲なり。」
(約翰傳二〇一四、一五)



繪解

始めに「弟子」「イエス」を書き後順々に首を入りて話せ。

第十二課 (九月二十二日)

園に於けるペテロ

(馬太傳二六〇三〇一五)

●説話の概略

諸君 先週の學課で救主が使徒等に謙遜を教へて居給ふた事を学びました。彼等は果して之を覺えたでし

ちか。

一、ペテロ自慢す(三〇一三三)

(イ) 主は弟子達に彼等の上に来らんとせる災害を預言せられた。今夜なんぢらは皆我について礙くであらう。牧者がうたれ、群の綿羊は散らされん。

(ロ) ペテロの自負心。然るにペテロは救主よりも勝りて自分の心を知れる如く、いゝえ誰かあなたを捨てても私は捨てません。たとへあなたと偕に死んでも決して爾を知らずと云ませんとお答いたしました。

(ハ) 主はペテロを警告す(三四)

主はペテロに、お前はさういふが、今夜鶏のなかぬ前にお前は三次われを知らずといふであらう、といはれ彼に警告をあたらせられました。

二、ペテロ睡る(三六一四〇)

(イ) ゲッセマネの園

イエスは再びペテロ、ヤコブ、ヨハネを伴ひ園に行き祈禱し給ふた、主は此時大なる憂ひ悲みを催され、殆んど死ぬる計りの苦痛を嘗められ、血の汗を流して祈禱し給ひました。

(ロ) ペテロ睡る。

主は弟子に同情を求め我と偕に目を醒して祈り居れ、と命じておかれたのに係らず、彼等は祈禱つておるこ

とが出来ず睡つて居りました。

(ハ) 主は彼を醒す(四一四五節)

主は其生涯の最大試練に遭遇して居給ふ時でありました。其使徒等を忘れ給はず。主のためでなくとも、使徒等自分等のために目を醒して祈つて居らねばならぬ時であつた。試練は間近く来て居ます。

三、ペテロ劍を抜く(四七一五)

(イ) イエス捕れ給ふ

暗夜の寂寥を破つて、棒と劍を持た一群の人々遣て参り、其最先にユダといふ弟子はイエスに接吻せんとて近よりました。人々は手をイエスに措て執へました。

(ロ) ペテロの無謀

之を見たるペテロは、先程たとへ悉主を棄て去ることも我はすてないと申した元氣を以て、直に劍を抜き、祭司長の僕を撃ち、其耳を斬落しました。

(ハ) イエス之を阻む

然し之は決して悪に勝つ方法ではありません故、主はペテロに、爾の刃を鞘に納めよ、凡て剣をさる者は剣にて亡ぶべし、といひ給ふた。そして僕の耳を癒してやりました。其間に弟子達を悉く逃してやりました。

●摘要

- 一、ペテロ自慢す (イ) イエスの預言 (ロ) ペテロの自負心
- (ハ) イエスの警告
- 二、ペテロ睡る (イ) ゲツセマナ (ロ) ペテロ睡る
- (ハ) 主は彼を醒す
- 三、ペテロ剣を抜く (イ) イエス捕れ給ふ (ロ) ペテロの無謀
- (ハ) イエス之を阻む

●重なる教訓

我等も目を醒し祈禱し居らば敗らるべし。

●應用

一、我等は自分の能力に依頼して、他人の罪や弱點を

見る時、己は決してあのやうなことは為さないと自慢してならぬことあります。
二、大なる誘惑の前に主は警戒をあたへ給ひます。私共が若し之に注意いたしませんならば大なる失敗に陥ります。

●幼年の部

箱庭を用ゐて二の場合を説明して下さい。
一、主がペテロに醒めて祈禱して居れと命じ給ふた。しかしペテロは睡つてしまひました。
二、ペテロは主を捕へに來ました僕の耳を斬落した。しかし之は主に喜ばれませなんだ。主は僕の耳を癒してやりました。
教訓、私共も悲しめる人に同情し、愛を示して其人を慰めることが出來ます。悪い事をして決して人を助けろことは出來ませぬ。

●金言

「惑に入らぬやう目を醒しかつ祈れ。(馬太傳二六。四二)



繪解

- 一、木の葉を盡け、之は撒撒樹でゲツセマナを現す。
- 二、松火、之はイエスを捕へに來ました人々を示す。
- 三、劍、之はペテロが僕の耳を斬つたもの。

第十三課 (九月二十九日)

祭司長の家に於けるペテロ

(馬太傳二六〇。五五―七五)

●説話の概略

緒言、イエスは僕の耳を癒してやりまして後、直ちに縛られて兵卒に引かれました。

一、ペテロの墮落

(イ) 彼はイエスを棄て去る (五五、五六節)

ペテロは如何に感じたでしょうか、昇奮し、怒り、主を助けたと思ひましたが、恐れて他の使徒と共に逃げ

て暗夜の中に没れてしまひました。

(ロ) 彼は主の敵の間に交る (五七―六八)
救主は今や祭司長の館の中にあり、残忍、兇悪なる敵に圍まれて居給ひます。ペテロは其傍に居ますか、否彼はキリストの敵の間に雜つて火に暖まつて居ます。

(ハ) ペテロ主を知らずといふ (六九―七四)

婢の一人がペテロに申しました。お前さんもイエスと一所に居ましたね、と、ペテロは考へる暇もなく、嘘をいひました。いや知らない、と。次の下女が尋ねた時にどうでしたか。此度は誓を立て、「我は其人を知らず」と申しました。第三回は如何でしたか。一層悪くなりました。此度は誓り且誓ふて、我その人を知らずと申しました。丁度古きペテロに反つてしまつて居つたのであります。

二、ペテロの轉機

イエスはペテロと婢などとの同答を聞いて居給ふたのでありましよう、ペテロが主を識すと曰ひも果さず、勿ち鶏は鳴いた、其時主は身を回らしペテロを見給ひました。此は愛と憐憫と信任の眺めであります。

多の言にも勝りて此一瞥が彼の心を碎きました。

三、ペテロの回復

(イ) 彼は憶出しました(七五節)

今や曉にならうとする時で寒く薄暗いのです。彼は何を聞き返したか。鶏が曉明を報じました。彼は主の警告己の自慢心を想ひ起しました。あゝ何たる愚者であつたでしょう。止めてしまへ、止めてしまへ、と悪魔は叫びました。お前は主を汚したではないか、もはや弟子と呼ぶことは出来ないだらうと。

(ロ) 彼は只一人で出て行きました(七五節)

救主に近づくことは出来ない、又談話することも出来ない、しかしペテロは暖かい火を後にして、ほの暗い街に出て行きました。

(ハ) 彼は泣きました(七五節)

可憐そうに、彼はあんな悪事をいたしました、しかも敷時間先きに自慢して、己れは誰よりも勝れりといふた時よりも一層より善き人間になつて居ました。

●摘要

一、ペテロの墮落

(イ) イエスを棄て (ロ) イエスの敵と雜り

(ハ) イエスを知らずといふ

二、ペテロの轉機 イエスを彼を警め給ふ

三、ペテロの回復 (イ) 彼は憶起し (ロ) 唯一人で出行き

(ハ) 泣きました

●重なる教訓

遠く離れてイエスに従ふて居る者はやがて主を知らずといふに至る。

●應用

一、一の罪が他の罪を惹起す順序を見よ。

高慢心——驕傲の愾意——無分別——大罪

二、我等が失敗せし時主イエスは愛と憐憫の眼を以て再び悔改を待ち給ふことを憶えなさい。

(實例) ナヤック、ストーカー少佐が教はれて未だ間もない時、人に戲弄れて、神像を汚す言を發しましたが、彼は跪いて直に神の教を求めました。

●幼年の部

箱庭を用ひて ペテロがイエスを去りし事、次に離れて彼に従ひ行き、

爐の傍にて奴僕たちと語りし事、三回までイエスを知らずと拒んだ事、イエスのやさしき顔貌を見、出行きて哭いた事を説明して下さい。

教訓、一、一の悪事をなしました時、私共は直に誘惑より遠ざからねばなりません。若しそうでないとペテロの如く悪より一層悪に進むものであります。

二、如何程悪くあつても決して再び試みるは無益と考へてはなりません。ペテロの如く眞實に悔ひ、直にイエス様に赦を願ひなさい。

(實例) 嬰兒が歩くことを習ふて居ましたが、お母さんの手を離れて、少しばかり歩みましたが倒れて、衣服を汚しました。そうして泣きましたがお母さんが直さま来て助け起してくれました。若し一度離したからといふて再び歩み出さないならば如何でしょう。それは實に愚かなことでしょう。

●金言

「然ば自ら立ちと意ふ者は傾れざるやうに慎むべし、神は信なる者なり爾曹を耐忍ぶこと能はざる試惑に遇せし」爾曹が其試惑を耐忍ぶことを得ん爲に共にそへて逃るべき途を備へ給ふべし」

●繪解

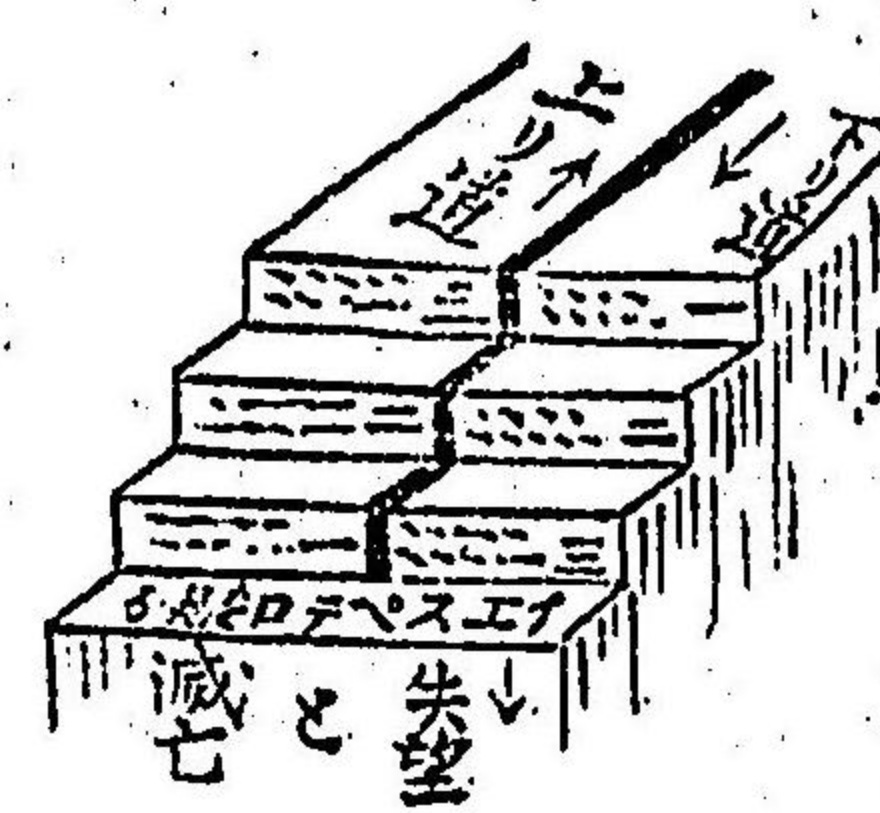
(哥林多前書一〇・二三・二三)

此は黒板による、或は段々の如き所に兒童を導いて、實物教訓を授けることが出来るのであります。最初はペテロの墮落を示します。

第一步 ペテロは主を棄て去る

第二步 彼は其主の敵と雜る

第三步 主を知らずといふ



若し彼が進んで行けば何所に行つたてでありましょう。失望と滅亡に行きます。下り道に一步降りんとした時、誰か彼を顧みましたが、イエス様です。イエスが彼を見ました後ペテロは如何いたしましたか。上り道を上りはじめました。第一步 ペテロは恥ぢず

第三步 ペテロは哭く それから如何いたしましたか。失望と、滅亡に背を向け、上り道を進んで登りました。

第十四課 (十月六日)

質問日曜日

緒言 過る十三週間にイエスがペテロに多の種々な教訓を教へ給ふて、彼の使徒たる訓練を施されたことを

学びました。丁度學校の生徒が、耳で聞き、目で観、手で作つて学びまするやうに、ペテロは時には主の御言により、時には御手本により又時には御命令に服従することによりまして種々教へられました。

第一課 耶穌の召

パブラスマのヨハネの教に由りましてイエスの所に参りました最初の二人の弟子は誰々でしたか。(ヨハネとアンデレ)
アンデレは其時一つの大切な勳を致しました。それは何でしたか。(其兄弟シモンペテロをイエスの許に連れて参りました)
ペテロは如何いふ性質の人になると教主は仰せられましたか。(ケバ、蟹)
其次にキリストに従ふた二人の名前(ピリポ、ナタナエル)
私共は此五人の者が召された話より如何いふことを学びますか。(教主の召は種々違つた仕方であり、私共に参ります。而して其召は私共一人一人に來るのであります)

第四課 イエス死に勝ち給ふ

ヤイロはイエスに何をお願いいたしましたか。
(來つて其小さな娘を癒して下さい)
如何なる方法でイエスは之を爲し給ひましたか。
(其手を取つて、起きよ、と曰はれました)
イエスは娘の両親に何といはれましたか。
(何か食物をあたへよ)
此出來事より私共は何を學びますか。
(イエスの前では死でさへも能力なきこと)

第五課 使徒の派遣

キリストが困窮せる群衆を眺められし時、彼等は何に似て居るといはれましたか。(牧者なき羊、牧者なき收穫)
キリストは何が一番に必要であるといはれましたか。
(牧者及工人)
キリストは此大必要を如何にして満たし給ひましたか
(彼の使徒等を選び、彼の能力を授け、而して彼等を派遣せられました)
此くなされた理由は如何。

第二課 教主の召に應ふ

イエスは忙しく働いて居ました漁人四人に何といはれましたか (我に従へ、さらば我爾曹を人を漁る者と爲ん)
彼等は如何に應えましたか (凡を棄て彼に従ひました)
彼等はイエスに従ひ如何なる事を見又聞きましたか。
(キリストの奇蹟を見且其教を聞きました)
彼等より私共は何を學びますか。(主の召に應じ奉り其教訓を實行することでありませ)

第三課 耶穌様の教訓

ペテロの家でイエスのなされた大なる業は何ですか。
(彼の岳母の熱病を癒しました)
キリストはペテロの舟を如何になし給ふたか (其舟より説教し且後に魚を一杯に其中に入れしめ給ふた) キリストはペテロの心に何をなされたか (彼の罪あることを示し、而して後彼を獎勵し給ひました)
イエスがペテロにあたへ給ふた御助より私共は如何なることを學びますか。(イエスは私共の日々の試練に於て私共を助けて下さる御方であります)

第六課 ペテロの主

(其弟子も亦他人を助ける役目があるからです)
キリストは如何にして憊たる群衆に食をあたへましたか。(五つのパンと二つの魚を五千人の人々に満足するだけに殖して)
浪の荒い海上でペテロは何を爲すことが出來ましたか (海上を歩むことが出來ました)
ペテロが沈みかけました時、キリストは如何にして彼を助けられましたか。(彼の手を採りて、彼を支へ上げて)
キリストが憊たる群衆を沈まんとせるペテロにあたへられた御助より私共は如何なることを學びますか。
(彼は私共のあらゆる困窮又は困難に於て私共を助け得るといふこと)

第七課 讚め且叱らる

何故イエスはペテロをお讚めになりましたか。
(ペテロがイエスはキリスト神の遣し給へる受膏者) 神の子であることを知つたからであります)
何故イエスはペテロを叱り給ふたか。(ペテロは主を止

めて苦難に遭はせじといたしましたからです) イエス其弟子たる者は如何なる覺悟でイエスに従ふべきかと教へ給ふたか。(其弟子たらんとする者は己を捨て十字架を負ふて従ふべし)

ペテロが讃められ且叱られたことより私共は如何なる教訓を學びますか。(イエスは其弟子が善をなす時之を奨励し、惡を爲す時、之を譴責なし給ふ)

第八課 蠟燭 決心日曜日 私共の靈魂は何に似て居ると學びましたか。(エホバの蠟燭)

若し私共が救はれて居ますならば如何なる方法で光を輝さねばなりませぬか。

(善き生涯、證言、イエスの爲めに働くことに由り) 私共の光を消すものは何でありませうか。(罪、或は救を唯自分一人に隠して置くこと)

若し私共が救はれて居ませんならば私共は如何にすべきでしようか。(世の光で在ますイエスに其救の光を私どもに點じて下さるやう願はねばなりません)

第九課 イエスの變貌 キリストの榮光を見たのは使徒の中誰れと申したか (ペテロ、ヤコブ、ヨハネ) キリストと對話せし二人の人は誰々ですか。

(モーセとエリヤ) ペテロは此榮光の顯現を有難く思ふて居つたことは何に由つて現はれて居ますか。(後年其手紙の中に之について書いて居ります)

主の變貌より我等がペテロと共に學ぶことは何ですか (救主の偉大なること、其榮光あること)

第十課 人の罪を赦すこと ペテロに主は幾回人の罪を赦せと曰はれしか。(七度を七十度するまでも)

譬喩の中にある國王は大なる負債ある人が免して下さるに願ふた時、如何にいたされましたか。(赦した) 赦された僕が、己に少しの負債ある友人に遭ひまして友人が今暫らく猶豫を乞願した時、如何にいたしましたか。(牢獄に入れた)

國王は次に前の僕に如何にいはしましたか。

(救さるる僕を耐しました) イエスは我等に何を教へんとして居給ふのですか。(彼の弟子たる者は心から他人を救さねばならぬ)

第十一課 謙遜の徳 イエスがなされたことで弟子等が非常に驚いたことは何ですか。(弟子の足を濯い給ふたこと)

イエスがペテロの足をも洗はんとせられた時、彼は何といひましたか。(なんぢ断えて我足を濯ふべからず)

イエスが洗はれざる者は我に關する事が出来ないと言明せられた時、ペテロは何と申しましたか。(手をも首をも洗ひ給へと申しました)

イエスは之を終りし時、弟子等に何といはれたか。(彼の弟子は此實例に倣ひ互に他人の面倒を見よ) イエスの實例は私共に何を教へますか。(謙遜)なる精神を持つことであります)

第十二課 ゲッセマチに於けるペテロ ペテロが自慢して、己は決して主を棄てないと言した時、イエスは何と答へ給ふたか (彼に來らんとせることを警戒せられた)

第十三課 祭司長の家にて イエスが捕はれた後、ペテロは如何に罪を作つたか。(彼は遠くからイエスに従ひ、其主の敵と雜り、三度まで主を知らずといひました)

ペテロが悪かつたことを感じたのは何の爲でしたか。(イエスが彼を顧みたり其眺めでした) 其時に彼は如何に致しましたか。(イエスのお言を想ひ出し、外に出行き、痛く哭きました)

ペテロが主を知らずと申したことはより私共は如何なることを學びますか。(若し私共が遠くよりイエスに従ふならば、私共もや)

がて彼を知らずといふに至る(二二八)

第十五課 (十月十三日)

カルバリ (馬可傳二五〇、二〇一四七)

●説話の概略

緒言 前回の學課でペテロは自分の罪を悔ひて痛く哭いてゐました所を學びました。彼の胸には「あ、我は此三年間主と偕に在り、今主が我を一番に要し給ふ時に我は主を棄てた」と悔恨の情が溢れて居つたに相違ありません。それで彼はかの二階座敷に行き、自分を床に投げ出して、斷腸の念をして哭いたことでありました。其間に救主は官廳を引出され給ひました。

一、救主の重荷が知らざる人に負せられた(二〇二節) 今や朝の日光が光り輝いて居ます。イエスは羅馬國の習慣により十字架を負されて、城門を曳出されました。昨夜の残酷なる鞭打れのため疲れたまひ、十字架の重荷に堪え兼ね、倒れ給ふた。誰が其荷を彼の代りに負ふたか、弟子の一人か、否、シモンと云ふ其所を通りかゝつた見ず知らずの人でありました。

二、救主は盗人と共に苦痛たまふた。(二二二―二二八節) 暫らく前ヤコブとヨハネはイエスの右と左に名譽の地位を求めました。しかし今見よ、弟子ではなく、盗人が一人は其右、一人は其左に。一生涯悪事をなして居つた盗人が、一生涯善事を爲し給ふたイエスと共に。つけられたのであります。

三、衆人イエスを嘲弄す(二九―三三節) 之等の群衆の中には或はイエスに癒され、助けられた者も多く難つて居つたであらう。しかし誰一人味方になり辯護する者がありません。イエスは彼等の妄言、嘲弄を一人で忍ばれたのであります。(三三―三七)

四、救主の渴が見物人の一人に癒さる(三三―三七) 此節ろしき渴の時、誰が彼に飲物をあたへましたか、一人の見物人でありました。彼の弟子は遠方に逃げて、其所には居りません。十字架上の苦痛の中渴は一番に苦しいのであります。

五、救主の偉大なることが異邦人により證せらる(三九節) ペテロも嘗て「爾は神の子なり」と申しましたが今は

誰が證言をいたしましたか。羅馬の軍人。弟子等が黙して居るのに此軍人は、イエスは常人ではない、神子であると申しました。

六、救主の最後は婦人等に由りて見守られた(四〇、四一節) 其中の或者は十字架の近くに立つて居ました。

七、救主の墓は秘かなる弟子に由り備へられた(四二―四七節)

アリマタヤのヨセフを見よ。先づピラトの許に行き、ピラトが羅馬の士官等と話せるを待ち、許可を受けました。其次に忙いで布と香物を買調へ、奴僕及び一人の友人と共にカリバリに來り(約一九、三九) 肉體を下し布にて裹み、其を冷たき暗い穴に運び、遂に平たき石の上に恭々しく安置し、穴を蓋しました。

- (一) 救主の重荷
- (二) 救主の苦痛
- (三) 嘲弄

●摘要

- (四) 渴大
- (五) 偉大
- (六) 救主の最後
- (七) 救主の墓

●重なる教訓

耶穌は私共の罪が赦され得るために、苦難み死に給ひました。

●應用

- 一、ペテロが罪のため最後まで主に事へる特權を奪はれ他の者が其代りをなしたやうに、私共も注意をせねば主に事へる特權を奪はれてしまひます。
- 二、シモンは強いて十字架を負されましたが、私共は自分の意から十字架を負はねばなりません。イエスの許に参りました青年を見よ(馬太傳一九、一六―二二)
- 三、若し私共が人に棄てられ誤解せられ、罵詈雑言を浴びることがあるならば其時は十字架の上の耶穌を想起しなさい。
- 四、羅馬の士官がイエスの十字架に苦しみ給ふ状態を見て、之は神の子であると申しました如く、私共もイ

エスのため苦しむことにより榮光を顯すことが出来るのであります。

●幼年の部

箱庭の助を持つて、イエスの十字架を説明して下さい。三本の十字架、右左は盜賊、然しキリストの苦痛につきては餘り極端に語らない様にせねばなりません。其周囲に居つた人々が彼に爲すことの出来た事柄を語るやうにして下さい。ペテロも其所に居るべき筈であるが、失望し又耻ぢて近くに來ることが出来ませんでした。然しイエス様は彼を愛して居給ひました。イエス様は誰でも自分の悪かつたことを悔悲しむ者は愛して下さります。

●金言

「彼木の上に懸りて我儕の罪を自ら己が身に任給へり。是我儕をして罪に死て義に生しめん爲なり。彼の鞭朴れしに由て爾曹懲されたり。」

第十六課 (十月二十日)

復活日 (約翰傳三〇・一一〇・一九一三)

出したであろうに、不思議なことである、と思ひました。

(一) 彼等の誤謬 (八一〇節)

ヨハネはこう考へました。此は人の仕事ではない、主が豫め告げおかれたことであると。彼等は待つて居ましたか。否、何も仕方がない、と思ふて彼等は身を回らして家に歸つて行きました。

二、ペテロは主と唯一人で遭ひました。(路加傳二四・三四、及哥林多前一五・五)

然しペテロは其日に主に遭ひました。主は使徒等の中で最初に先づペテロに己を顯はし給ひました。何所で遭ひましたか。私共は知りません。亦何を主は言ひ給ふたか。之も書ゝれてはありませぬ。此會見は個人的なもので神聖なものであつたのでしよう、たゞペテロの心とイエスとの間の事件でありました。

三、二階座敷に於て他の使徒等と偕に。此の復活日が如何に始まつたかを見ておきましたが今其日が如何に終つたかを考へましよう。

(イ) 弟子達の恐怖 (一九節)

●説話の概略

緒言 ペテロはあの悲しい安息日を二階座敷で過したのであります。ヨハネは彼に會ひに參り、主の最期を語らうといはしましたが、餘り哀しくて言葉が出ませんでした。

一、墓に於けるペテロとヨハネ。

(イ) 彼等の驚愕 (二、二節)

未明の頃マグダラのマリアはペテロの宿れる所に馳せ付け、彼を起しました。ユダヤ人等はイエスの死骸をさへ休らかに捨て、置かないのであるか、ペテロ、ヨハネは驚き覺え、自分等で見ると出掛けました。

(ロ) 彼等の急躍 (三十七節)

二人の者が曲つた道を走りながら園の方へ下つて行きました。ヨハネは多分ペテロよりも弱年であつたのでしよう、ペテロを駆け抜き墓に來ました。しかし墓に入らずペテロの來るのを待ちました。ペテロは後れて來ましたが早速墓に入り、裏んだ布が整然と疊まれて、又頭の布は別に置かれてあるのを見ました。若し誰か死骸を盗み出したものとするれば、さつと其衣の儘取

二階座敷に集つて居る弟子達を御覽なさい。戸は閉ざれ門を入れ且鍵が下されてある。ユダヤ人等は其主を捕へました、今は其弟子等をも亦捕へるでしようか。

誰か彼等の中央に立つて居る。誰ですか。救主です。彼等が驚いたのも無理ではありません。

(ロ) 彼等の喜悅 (二〇節)

救主は彼等に傷迹を示されました。今迄の恐怖は忽ち消え去り、彼等の心は喜悅と驚嘆に満されました。

(ハ) 彼等の義務 (二二―二三節)

彼等の爲すべきことは何か、閉ぢ込もつて、敵に隠れて居ることでしょうか、否、世の中に出て行くのである。イエスが父に遣されたやうに、彼等はイエスに遣されて出て行かねばなりません。

●摘要

一、墓に於てヨハネと共に。

(イ) 彼等の驚愕

(ロ) 彼等の急躍 (ハ) 其誤謬、

二、主と偕に唯一人。

三、他の弟子と共に二階座敷に於て。

(イ) 彼等の恐怖

(ロ) 彼等の喜悅 (ハ) 彼等の義務

務、
●重なる教訓
復活の主は新鮮なる希望と喜樂を齎す、

●應用

ペテロ、ヨハネの二人が墓に來たが、も一仕方がないといふて歸りましたが、私共も餘り忙しいでは大事な事を損する場合があります。

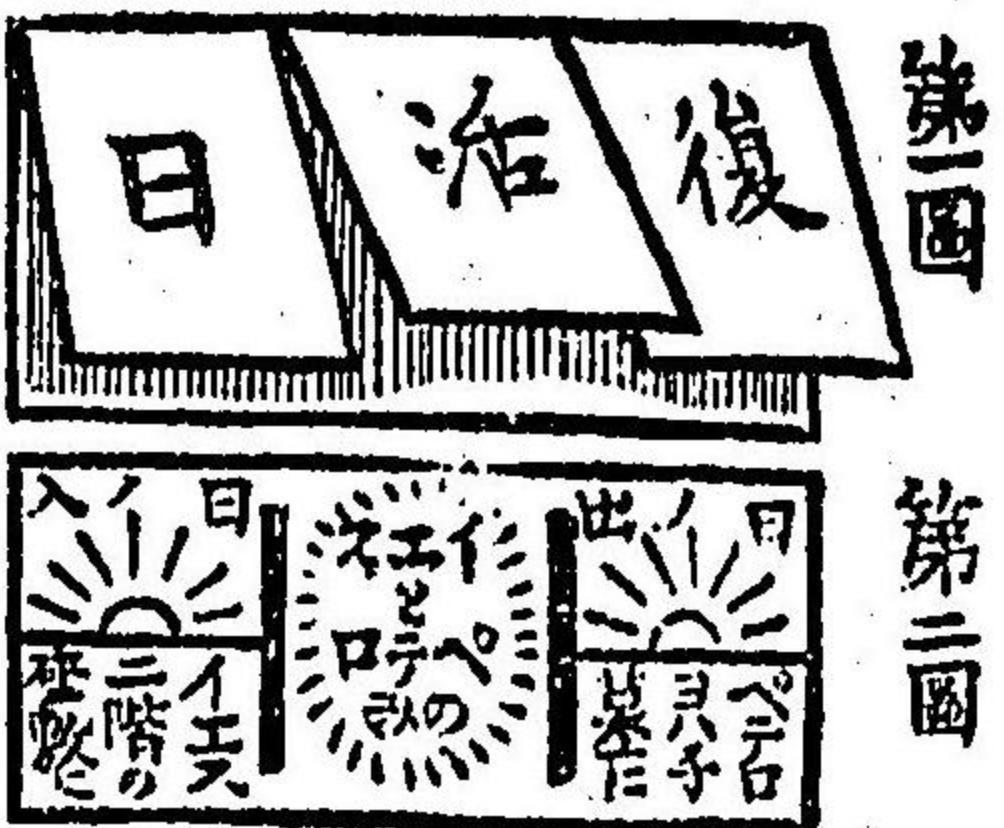
(例) メリーさんは或日曜日一生懸命に其酒香のお父さんが救はれるやうに祈りました。そしてやうやく、父を集會に誘ひ出しました。集會中メリーさんは父の側に座つて居ましたが祈禱會の時、其も友達か、何か話があるからといふてメリーさんを外に誘ひました。メリーさんは父をおいて出て行きました。悪魔は囁きました「お前の旅でさへお前を置いて出て行く程であるから、お前はさても救はれない」と。それで父は其晩救はれずさ出まされてまた酒屋には入りませんでした。又弟子達が怖れて居ました時、救主が現はれて希望と歡喜をおたへ給ひました如くに、私共が暗黒な歩む時にも、若し主が現はれて下さるならば、私共が主を信じますならば、私共は歡喜ぶのであります。(例) 救世軍の一兵士其愛子を失ひました。然し平和に、落着いて居ますので他人は奇しみませんでした。彼が答へて申しますに「私はあの子が居なくなりまして、首で申上げられる程苦しむ思ひますが、しかし耶穌様は眞實私の側に居て私を慰めて下さります」と。

●幼年の部

二階座敷だけに話をとつて下さい、兒童等に次のこと

ん(約翰傳二〇・二〇・二二)

●繪解



第一圖

第二圖

紙を二ツに折り一方を第一圖の如く三ツに切る、其上に復活日を記す。其日の曉頃に如何なる事がありましたか、さ問ひ答を聞きて後「復」の字を上げる。暫く後にペテロにどんなことが起りましたか、「活」を上げる。夕方に如何なる事が起りましたか、「日」を上げる。

第十七課 (十月二十七日)

湖畔に於けるペテロ

(約翰傳二一・一一九)

●説話の概略

緒言 今日救主が湖水の畔で爲されたこと、いはれたことを學びましょう。

一、漁人 ペテロ、(二一三節)
使徒等は今やガリラヤの故郷に歸つて居ます、ペテロ

を質問して下さい。みなさんは此室に何所からはいつて來ましたか、戸口より。若し其戸が閉まつてあれば何所からはいるでしょう、後ろの戸口より。其所も閉されてあれば何所から、窓口から、窓も閉まてあれば何所より、はいることが出来ません。そうです、私共はあたりまへの人間ですから、しかしイエス様は復活後に、窓も戸もみな閉まつて居ましたが其室の中に、おはいりなされました。弟子達がイエス様のことを話して居ました。不意にイエス様が御出でになり、弟子はおどろきました。しかしイエスは親切に彼等に語られ又手と足を見せ給ふて「何がそこに見えたでしょう」彼等に御自身を現はされました。又弟子と共に魚と蜜を食はれました。

●金言

「弟子たち主を見て喜べり」イエスまた彼等に曰けるは爾曹安かれ、父の我を遣し、如く我も爾曹を遣さ

は何をしようと思ふて居ますか、もとの職業に反つて漁師を仕うと申します。そこで他の者も従ひまして、皆なで夜中働きました、が少しも魚は採れませんでした。

イエス彼等を眺む(四十六節)

彼等は陸に居給ふお方を主と認めることが遅かつたのであります。主が彼等に網を舟の右に打てといはれた時にも彼を知りませなんだ。

二、弟子ペテロ(七一節)

誰かイエスを認めましたか、ヨハネです。ペテロに囁て「主であるぞ」と。ペテロの急卒な男ですから。

上衣を着け、海に飛込み、岸を指して急ぎました。救主は彼に何と仰せられたか。救主を愛する餘り利己的となつてはならぬ。其友を助けねばならぬ、自分一人イエスに遭ふため走つて行き仕方を他の人にのみ負せておいてはならぬ。

イエス彼等を食せしむ(二一四節)
主は何を用意せられておつたか、其弟子等のため暖き朝餐で、魚は炭の上にパンは其側にありました。此

事はペテロに昔の事を想出さしめました、イエスが凡て必要なものを準備してお與へ下された時の事、イエスは死に由りて少しも變つて居給はない。

三、使徒ペテロ(二五—二七節)

使徒等はみな驚いて言を出す者がありません。主はかく愛に充ちて居給へど亦偉大なのであります。悉く食其ふて飽きました時イエスは如何になされましたか。友達の前で三回嚴かな質問をペテロになされましたか。ペテロイエスに由り使徒の職に回復せらる(二八、二九節)救主は彼に何と告げられましたか。若き時はペテロは己が途を行つた、自分の念ふ儘をなしたが、老てはイエスのために十字架に至る道を歩むであらうと、之はペテロにとり慰藉でありました。もはや再び主を知らないといひ又は主を捨てるやうなことがありませんと信じました。

摘 要

- 一、漁人ペテロ。イエス彼を眺む。
- 二、弟子ペテロ。

イエス彼に食はす。

三、使徒ペテロ。

イエス彼を回復す。

●重なる教訓

救主は其弟子が主に對する愛を實行に由り證明せんことを求めらる。

●應 用

一、イエスが弟子等を眺めて居給ふたやうに今日も主は我等の日々の仕事の時、我等の側に立ち、一々の失敗を見且成功をば勵まし給ふのであります、彼を見上げることを忘れないで行きましょう。

二、利己的精神を慎まねばなりません。たとへば集會に行くにしても他の人々にも機會をあたへねばなりません。

三、誰でも真心よりイエスを愛する人は己の特別な仕事(例)十三歳になる少女が救はれて居ますが、日曜日の夕いつも留守をして幼き嬰兒を睡かすのでした。こうしてお母さんが集會に行けるやうにして居ました。しかしお母さんは救はれて居ませんでした。故集會には行かずたが散歩に出掛けられて居ましたが、遂に救世軍の野戦に引き付けられて救はれました。

事を授けられ且又其生涯の中何時かは十字架を持つこととであります。

●幼年の部

此學課は箱庭を持つて説くのに最も適して居ます。七人の弟子が小舟に乗つて夜通し漁しました。一匹も漁りません。イエスが岸から眺めて居ました。御命令により網を再び入れました。今度は一杯になりました。網を岸に惹く、パンと魚の朝飯、イエスのペテロに對するお言葉をよく話して下さい。イエス様は私共一人一人に「お前は己を愛するか」と尋ねられます、若し「はい、そうです」と答へまするならば、彼は私共に何か彼のために爲せよと命じ給ふのであります。

(例) 一人の少年兵が。ある婦の人が自分のお母さんに小供が死んだのにも葬式をする金がないと告げて居るのを聞きました。此兒はイエス様を愛する兒でしたから、其婦人をお助けしたいと考へました。それで彼は婦人が歸つた後、貯金の中に入つて居ましたお母さんのお母さんの所に持つて参りまして、あの氣の毒なばお母さんへ上げて下さいと申しました、婦人は此兒の親切な行で非常に慰められ助けられました。

●金 言

「小子よ我儕愛するに言と舌を以て相愛する事なく行と實とを以てすべし。是に由り我儕眞理より出しを知りかつ我儕心を主の前に安んずべし。」(約翰第一三三、一八一—一九)

●實物教育



實物を机の上に持つて来て説明せよ、冷たい鐵瓶蓋は動かしても暖つても湯氣を出しません、(イ)、しかし火で燃やして熱をあたますれば、(ロ)(ハ)の水は暖められ(ニ)の様に湯氣を出します。其様に私共の心が冷たい時打つても此つても善くなりませんがイエス様の愛で熱しますならば私共の心は熱して参り、何かいエス様のために働ければならぬやうになつて参ります。

第十八課 (十一月三日)

ペテロは耶蘇の昇天を見る

●説話の概略

緒言 救主が墓より上り給ふて四十日を経過しました使徒等はガリラヤからエルサレムに歸つて参りました。

てもう一度、其主の現はれ給ふのを待つて居ます。ルカは主の最後のお言や事跡を記して居ます、そしてイエスが去つてより後弟子達が如何なる事をなしたかを記すためなほ一の書物を著しました。

一、橄欖山に於て其主と偕に。
(イ) 主の最後の言(一八節)
救主は何と彼等にいはれたか、今や彼等を離れんとし居給ふ。誰が来て彼等を導くのでしようか。聖霊、彼の御助ないならば彼等は誤謬をなし、失敗し、其敵のため速かに敗られて了ふでありませう。イエスは彼等が如何なるものとなるを望んで居給ふたかと申せば、即ち彼の證人、主の救の能力、死、復活などを到る所に世界の端までも其證人となることでありました。

(ロ) 主の訣別(九節)
弟子達は橄欖山に主のお従をなして行く道すがら、其お言に耳を傾けて居ました。(路加傳二四・五〇、五一)救主は彼等の中に立つて、手を擴げて彼等を祝福し、後徐徐と地より離れ給ふて、だん／＼上空をさして昇り給ふた、而して父の右に歸り行かれたのであります。

今は使徒の数が十一人となつて居る。ユダは自殺して果てました。ペテロは會衆の中に起ち上り、誰かユダの代りにイエスを知れる者で其魁の證人たるべき者を求めて、語り出しました。
(ハ) 新しき使徒(二三・二六節)
彼等は二人の人を選び籤を引き、主が何れを選び給ふかを見ました。籤はマツチアに當りました。彼は十二使徒の一人となりました。

● 摘要

- 一、橄欖山に於て其主と偕に。
(イ) 主の最後の言 (ロ) 主の訣別 (ハ) 主の再來
二、二階座敷に於て。
(イ) 祈禱 (ロ) 空位 (ハ) 新使徒

● 重なる教訓

救主は天に昇り給ふたが、彼はなほすべて彼を愛する者の心の中に住み給ふのである。

● 應用

一、今日の私共もやはり主より聖靈を頂戴して、言

(ハ) 主の再來(二〇、二二節)
使徒等はイエスが實際彼等を去り給ふたを信することが出来ずして、空しく茫然と天を見上げて立つて居ました。白き衣を着たる二人の天使彼等の側に立ち、「天を見上げて居つても、救主は今はまだ歸り來給はない、しかし時至らば彼は榮光の中に再び歸り來給ふであらうと告げました。

二、二階座敷に於て
使徒等は橄欖山を去つて再びかの二階座敷に反つて参りました。(一哩の四分の三程) 悲哀の中にも云ひ得ざる歡喜に充たされて、救主は今彼等の間に御出なされない、しかし主は聖靈を彼等に贈り給ふのであります。(約一六・二八)

(イ) 祈禱(二二・二四節)
之は多分先日イエスが其弟子の足を濯ひ、最後の晚餐を共にした所である。使徒以外の人も加はつて。彼等は何をなしたか云ふと祈つた。神が其約束を成就し、聖靈を降し給ふやうに求めました。
(ロ) 空位(二五・二三節)

と行とに由りイエスの能力を證言せねばなりません。
(例) 亞米利加に於てある婦人の證言が、獄中救世軍人の訪問により救はれました。後彼女は一週に一度、盜賊の住んで居ました所に行き、イエスの救の能を語りました。「私も前には盜賊でありましたから私のいふ事を信するでありませんよう。」
二、たい天を見上げて空しく日を消してはなりません。彼がお歸りになるまで其旨を存して待つて居なければなりません。

● 幼年の部

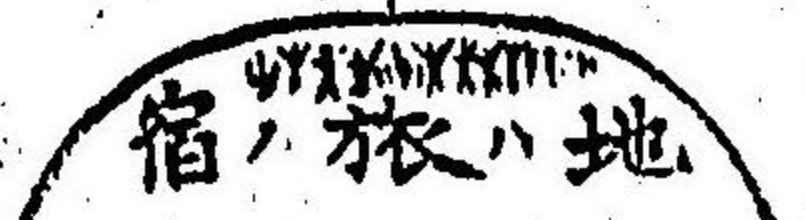
箱庭を適當に用ゐよ。キリストの弟子達が山に集つて居ます、主は其間に居つて、彼等と語り、次に彼等を放れて天に登り給ふた。
イエスは今天に居給ふ、其民のため美しき家を用意して居給ふのですが、しかし亦私共と一所に此所にお出になつて私共を凡の事に於て助けて下さります。

(例) 小女の父が外國に行きました、しかし紙や贈物や昔い手紙を呉れました。彼所で美しき家を用意したして後救世軍の士官に頼んで其母と子を送つて貰ひました。そして今までもよりよすつと美しい立派の家に彼等を迎へました。それですから父の行つたことは結局彼等のために善かつたのであります。

● 金言

「なんぢも高處にのぼり、虜者をとりこにしてひきまゐり、物を人のなかよりも叛逆者のなかよりも受たまへり。ヤハの神に住たまはんが爲なり。」(詩篇六八・一八)

● 繪 解



先づ雲を衝き天國を示せ、之は我等の父の家、イエスの眞の家、又すべて彼を愛する者の家、天國は我等の家と記せ。次に地球を衝け、之は假の旅宿、暫時の住家、「地は旅宿」と記せ。イエスも暫くここに居給ふた。弟子達を衝き、次に矢を示し「イエス昇天す」と記せ。

第十九課 (十一月十日)

ペンテコステに於けるペテロ

(徒二・一七八、二二一―二八、三六―四一)

● 説話の概略

緒言 使徒等及び聖き婦人等及其他の弟子等は主の命令に従ひまして二階座敷に集まつて十日間祈禱會を毎日いたしました。約束のものを待つて居ました。此朝も

早朝祈禱會のため集まりました。

一、火のバプテスマ

(イ) 其が降りし有様(二―四節) 彼等は悉く愛と信仰を一にして怖れなく失望なく、待つて居ました。不意に大なる激動音響が家に満ち、焔の舌が現はれて各々の上に止まりました。

(ロ) 其が何を爲しましたか(五―八、二二―二三節) 彼等が未だ嘗て覺えなかつた、新しき言、新しき愛、新しき能力を以て語りました。エルサレムは此時人が一杯に来て居ました。各國からユダヤ人が來集つて居ました。彼等の驚愕を想像して御覽なさい、二つに分れました。一方は驚いて問ひ質し他の方は「何だ此騒動は、朝から酒に酔つばらつて、と嘲り罵つて居る。

二、焔の言

(イ) 誰が彼等に語りましたか(二四―二八、三六節) 六週間前には婢の一人に對してさえイエスを告白するを恐れたペテロが今や大膽に此大群衆の前に立ちて、「汝等すべてエルサレムに住める者よ」と燃ゆる舌を以て、忌憚なく語りました。

(ロ) 彼等は何を成果げましたか(三四―四一節) 驚くべき勳、人々が傾聴せる状を見よ、頭を垂れ、耻ぢ悲しんで「眞實にそうである。彼は聖くして玷なく、我等の救主であつた、然るに我等は彼を十字架につけた、今如何に爲すべきか」之は聖靈の勳であります。

聖靈が常にペテロの唇にあつたのみならず聴者の心に働らき、彼等をして己の罪人なるを覺らしめた、(約一六・八) 幾人が従ひましたか。約三千人餘り改心いたしました。聖靈の御臨在の驚ろくべき結果、使徒等は始めてイエスが何故働に出行く前、先づエルサレムに止りて聖靈を待てと仰せられたか、其理由を知りました。

● 摘 要

- 一、火のバプテスマ、(イ) 其臨りし状 (ロ) 其直接の結果
- 二、火の言、(イ) 誰が語つたか (ロ) 其結果

● 重なる教訓

聖靈は聖き大膽なる勇氣を心に満たす

● 應 用

一、使徒等が心を一にし信仰を一にした時聖靈が降つたやうに私どもも、自分の方から知れる罪を取除き、願はねばあたらせられせん。

(例) 廣く君は集會で語る能を得たいと思ひました。が日々の仕事の時感なる不親切なる事に言を用ひますから、さうも其能力を頂くことが出来ませんのでした。

二、聖靈はつねに同じ有様で來り給ふものではありませんが、しかし同結果を齎らすものであります。私共をして以前になすことの出来なかつた自分の務をも果すことを得させて下さるのです。

● 幼年の部

此學課は幼年には餘り困難に過ぎる故蜜蜂と蜂巢より學課を學んで下さい、成るべく蜂と其巢の繪及び小量の蜜を以て來て下さい。一、蜜蜂 二、其巢 三、蜜につき説明し、次に教訓として、

ペテロの最初の奇跡

(使徒行傳三。一一一六。四。一三一—二〇)

● 説話の概略

緒言 ペテロが人民に説教し、驚くべき靈魂の收穫を得たことを前に學びましたが、只今は又一つ奇跡を行ふた話を學びます。

一、ペテロと跛者

(イ) 跛者の叫び (一一一五節)
二人の使徒は美門を通つて神殿に祈禱のため参りました。一人の跛者が憐れげに座つて施與を乞ふて居ます。ペテロは如何になしましたか。立止り彼に語りました。ペテロはイエスより氣の毒な人々の要求を却けてはならぬ、何か彼等のために出来ることをなせといふ教訓を學んで居ました。

(ロ) ペテロの施與 (六一—八節)

ペテロは貧しき労働者ですから金銭は持つて居ませんが、しかし其より遙か勝れるものを持つて居ました。ペテロが其跛者を起し、イエスの名に託りて彼に語れるを御覽なさい、新しき力が跛者に來りました、彼は起

● 繪解

前の畢條の繪を再び書き今度は矢を天より地に向つて突き其側に「聖靈降る」と書いて説明せよ。

● 金言

「然れども聖靈なんぢらに臨むに因て後爾曹能力を受け……地の極にまで我が證人となるべし」
(使徒行傳一〇八)

第二十課(十一月十七日)

ち、歩み、躍りながら神を讃めつゝ、使徒等と共に殿に入りました。

二、ペテロと群衆

(イ) 群衆のあやしむ (九—一節)
人々はあやしむ乍ら、走せ集つて参りました。此奇跡は恰もナザレのイエスによりてなされたものと同じではないか、しかも彼は死んで墓に置かれたのではないか。之は如何なることであらう。

(ロ) ペテロの説明 (一一—一六節)

ペテロは彼等の驚愕を見ました、機會を逸さず。彼は呼つて申しました。「我等を觀てはならぬ。我等の徳と能力が之を爲したのではない。我等は諸君と等しく労働者に過ぎない、イエスが之をなされたのである」

三、ペテロと有司

有司等は速かに此出來事を聞き、使上等を拘引し、其夜は禁錮に處し、翌日審判せんとしました。

(イ) 有司等當惑す (四。一三一—一七)

ペテロもヨハネも共に無學の漁夫であつた。然るに事

● 摘要

一、ペテロと跛者

(イ) 跛者の叫び (ロ) ペテロの施與

二、ペテロと群衆

(イ) 人民の驚き (ロ) ペテロの説明

三、ペテロと有司

(イ) 有司等當惑す (ロ) ペテロの決心

● 重なる教訓
イエスはなほも奇跡を地上に行ひ給ふ

●應用

一、神の僕是最貴重なる賜物を人々に施すことが出来るのであります。

(例) 一救世軍女士官の慈愷なる一家を訪問しました其主人は酒香で博徒で、盗賊でした。士官は其子供等を連れさせてやり、又其男に希望を興へ、遂に救に導きました。そして彼に仕事を見付けてやりました。今は彼は幸福であり、其家庭は愉快であり、彼は小隊の曹長であります。

二、ペテロ、ヨハネが榮光を悉く主イエスに歸し奉つたやうに、私共が何か人のため善き事をなさせて頂きますしても決して慢心に陥つてはなりません。

(例) 十五六歳の男子集會で役に立つておりましたが士官が戸口を番させ、時々話をさせ、又組會を受持たせたりして居りました。感謝せず却つて自慢になり、遂に大事にして呉れないといふ腹を立てて来なくなりしました。

●幼年の部

箱庭を用ふるに適して居ます。美の門の傍に跛者の乞食が座つて居ます。ペテロとヨハネが近づきました。跛者は起され、躍りながら神を讃めました。群衆が駆け集り、ペテロは彼等に悔改めて罪の赦を得よと警告しました。

第二十一課 (十一月二十四日)

ペテロと虚言者

(使徒行傳四。三三—三七。五。一一—二)

●説話の概略

(組長への注意) 之は最も重大なる事象である。虚言にも二種ある事を區別せしめ、不意の誘惑に負けてなす虚言と、前から謀つてなす虚言との二種であります。

緒言 先週にはペテロが一人の跛者に對し如何に親切であつたかを語つたが、今日は彼が罪に對して嚴然した態度を採れるのを見るのであります。

一、喜んで献げる人

神に献げるに二種の献方があります。一は私共に祝福を齎らす仕方では神の怒を惹く仕方であり、何を献げるといふよりは如何に献げるかといふ問題であります。

(イ) 兄弟の愛 (三二—三五節)

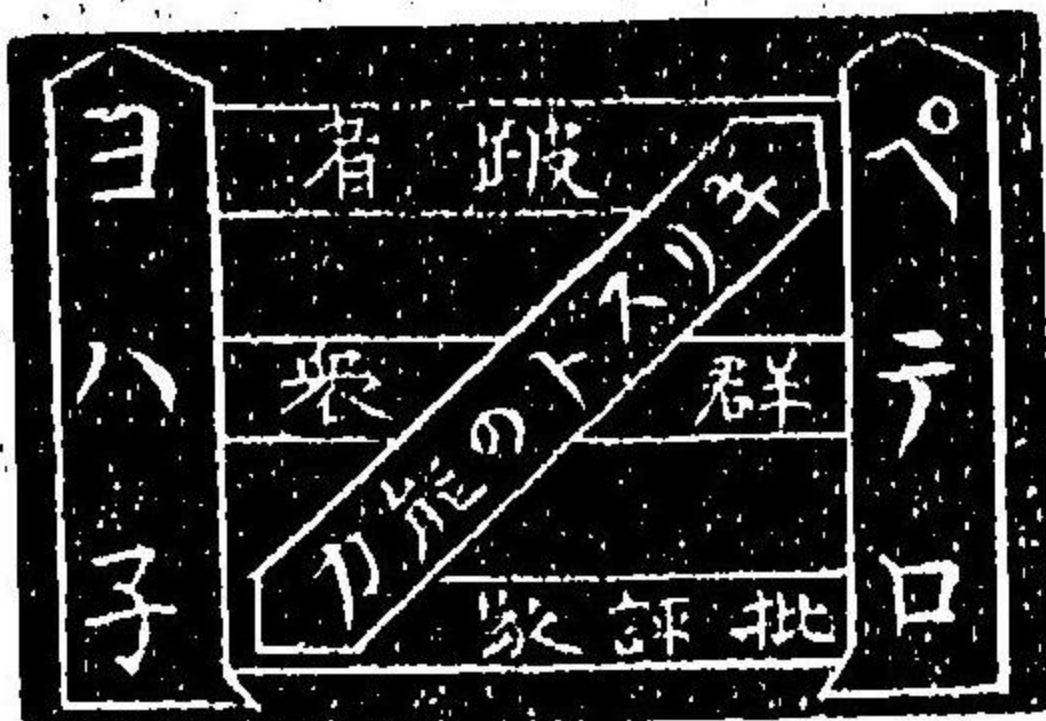
エルサレムには今や愛と信仰と喜樂に満ちて居る新しき改心者が幾千幾萬となく出ました。信者は強ひられて献げるのではなく、喜んで富める者は困窮せる者を助けました。

イエスは跛者を不思議なる能力を以て癒されたやうに今も悪い男の子や女の子をもたれ願へば善き子になして呉れるのであります。又私共はペテロやヨハネさんのやうに氣の毒な人や老人や跛者を助けて上げねばなりません。

●金言

「イエスの名は其名を信するに由て爾曹が見るところ識どころの此人を健勁にせり、……爾曹すべての人の前に於て此人を全く癒したり」(使徒行傳三。一六)

●繪解



黒板に一の門を過ぎ、美の門の所へ誰が来ましたか、ペテロとヨハネ、其門の所に誰が居ましたか、跛者、(帯入れる)彼は何により立つて居るの能力、其時群衆が集つて来ました。ペテロは彼等に何を話しましたか、イエスの能力、そうして居る跛者が使徒等を氣持よく感はなかつたのです。批評家。ペテロは彼等にギリソトの能力を宣へ傳へました。

(ロ) 「愚の子」(三六、三七)

彼の名はバルナバ、しかし使徒等に「愚の子」と呼ばれて居ました、何となれば彼は至る所人々を助け慰めました。其土地を賣り其金銭を使徒の下に持来り、神のために寄附しました。心は愛に燃えて居つたのです。神に祝福せられ、凡の人も祝福せられました。

(背後、九。七)

二、偽の寄附者

小隊がかくの如く幸福で且喜んで居ました。悪魔は何といたしましたか、嫉妬、利己、偽の種を播きました。アナニヤと其妻が悪魔の道具となりました。

(イ) 詐偽を謀る (一、二節)

之等の二人も亦土地を賣り、其金銭を使徒等の足下に持つて参りましたが、しかし何の爲にか、たゞ其己の名譽を得たかつた爲であります、アナニヤは金の一分分を藏し、使徒等及凡の信者等を欺かんと計畫しました。

(ロ) 詐偽を謀る (三—二節)

アナニヤ來りて金を献じて、「さあこれから人々が自分

を誤て呉るのであろう」と思つた然しペテロは嚴然と彼に語りました、アナニアは直ちに仆れて氣絶えしました。皆大に懼れました。ペテロも驚きました。少者は彼を昇出して葬りました。サツピラは多分其夫を尋ねて、は入つて來たのでしよう。ペテロ彼女に質しました。彼女は何と考へたでしよう。「さきにきめた偽を破つてはならない」と。ペテロの怖るべき言を聞きなさい。彼等は協同して神に奉事するのではなく、神を試みやうといはしました。相列んで葬られねばならなかつたのであります。

摘要

- 一、喜んで献ぐる者。
 - (イ) 兄弟の愛
 - (ロ) 慰の子。
 - 二、偽の寄附者。
 - (イ) 詐偽を計る
 - (ロ) 詐者罰せらる。
- 重なる教訓
神は詐偽を惡み、詐偽者を罰し給ふ。
- 應用

一、困難せる者を助ける爲め、手を伸すことをせざる者はイエスの眞の弟子ではありません。(雅各二。五—七)

(例) 一青年病氣で死にかけて居ましたが、士官が訪問して救はれました。他に自分より貧乏な一青年が病んで居ることを聞き、ポケットより五十錢程取り出しこれで、果物でも買つて上げて下さい、と申しました。彼の母は「これであの子が救はれて居ることを知りませんでした、今迄は一錢でも人のために用いたことのない者が」と申されました。

(例) 木賃宿に宿つて居つた小さな男子が入口にある老婆が、固いビスケットを齒のない口で、もぐもぐさせて居るのを見ました。氣の毒に感じまして持つて居つたコロロをやりまして「此中につけて、柔かにして食べなさい」と申しました。老婆さんは雖も世話をして呉れる人はなし、失望して自殺せんと思ふて居つたのです。之で自殺を思ひ止り救はれました。

二、詐偽、虚言は實に怖ろしき罪です、たとへ一時肉體を殺しませんでも、若し悔改めませんならば、私共の靈魂を永遠に亡ぼします。

幼年の部

箱庭を用ひて説明せよ、此學課をあたへる時注意すべきことは、神がなせ斯のやうに酷しく罰し給ふたかといふ理由を幼年に理解せしむることでありませぬ。即ち彼等が此の惡しき計畫を立てたことが惡かつたのである。

ります。それですから勿論、怖れのため不意に眞實でないことを語るなどは異つて居ます。

(例) 他の子供が何い悪いことに誘ふて來る時、そして「之は他の人に告げてはならぬぞ」などと申す時、「いや私はその悪い仲間には、加はりませぬ」と申しなさい。

金言

「眞理をいふ口唇は何時までも存つ、されど虚偽をいふ舌はたゞ瞬息のあひだのみなり」。(箴言二。一九)

第二十二課 (十二月一日)

試練の暴風 (使徒行傳五二—四二)

● 説話の概略

緒言 漁人のペテロは以前ガリラヤの湖で屢々、暴風雨の爲に恐ろしい目にあつた様に今度は信仰の上に。試練の暴風がせまつて參りました。

一、暴風の前
前回の學課で神の刑罰が詐偽者に加へられ、人々が皆大に懼れたことを學びましたが之は神の事を妨げたでしようか。

(イ) 祝福せられ且つ勝利あり(二二—二六)

萬事が好都合に行き、ペテロの影でさへ病人を愈しました。多の人は改心しました。之は惡魔が攻撃の用意を備へる時であります。

二、暴風の最中、
殘忍なる迫害が起りました。みな怖れ、驚き如何なる變事が起るか大に心配しました。

(イ) 獄に投せらる(二七—二九)
使徒等は今迄のやうに自由に説教が出来ません、盜賊や人殺と同じ獄に投せられました。惡魔は斯くして、彼等の口を閉ぢやうと望みました。誰か助に參りましたか、天使、戸を開き彼等を再び其働に歸へしました。

(ロ) 審判せらる(三〇—三三)
暴風は終りましたか、否、此はたゞ最初の嵐に過ぎません。使徒等は今や教ヶ月前救主を罪に付した其同じ集議所に惹き出されました。ペテロは彼等の前で震えませんでしたか。否、此機會を執えて、彼等にイエスと悔改及罪の赦を宣傳へました。

(ハ) 死の危険の裡に(三三—三六)

職官等はペテロの美しき言によつて覺りましたか、否一層怒りまして如何にして、使徒を殺さんと謀りました。ペテロは此時、これが救主の己に豫言して下さつた時であると考へたでしよう。

(二) 釋さる (四〇節) 使徒等は先づ棒に縛り付けられ、次に鞭たれました。そして死に曳かれることゝ念ふて居つたのにさうではなくて、釋されました。かくて彼等を呑み滅さんとした暴風もやうやく、平和に復しました。

三、暴風の後 暴風の後は破船や破船の片々が見えるものですが、使徒等は破船しましたか、失望してしまひましたか。歡喜と前進 (四一―四二節) 彼等を見なさい。イエスのため辱を受けることが出来た故幸福です。又イエスが暴風の中を助け出して呉れた故前よりは一層熱心に公けに就き私て於て働きました。

●摘 要 一、暴風の前 祝福せられ且勝利あり、

二、暴風の最中 (イ) 投獄 (ロ) 審判、 (ハ) 死の危険 (ニ) 放釋 三、暴風の後 歡喜と前進、 ●重なる教訓 神は我儕を其試練より救ふか、或は其中にありて我儕を維持し給ふ

●應用 一、使徒等が審判の時、機會を執つて福音を宣傳へました如く、悪魔が私共の舟を覆さんとする暴風は却つて、主の榮光を表す機會となるのであります。

(例) シモン、パンヤシはペッドフォード獄に十二年間禁錮せられ居ました、それで説教することは妨げられました、其間に「天路歷程」著しました、此書物は已に幾百萬の人々を感服したして居まして之は彼が説教してゐたよりも餘程多くの人々です。

●幼年の部 二、私共は何か特別の恩寵をうけ、或る困難、誘惑を打勝たせて貰ふた後は一層熱心に主のため働くべき筈であります。 箱庭を用ひよ。使徒等が群衆に説教して居る、執へられ獄に入れらる、天使に救出され、又同じ場所

説教いたしました、集議所に曳かれ、遂に鞭れ、再び説教する勿れと命せられました、然しイエスの事を語らずに居ることが出来ません。 神様を愛する者は時に困難な試練に遭ひます、しかし神は或は其を堪える力をあたへて下さるか、或は其中より救出して下さいされます。

●金 言 「愛する者よ爾曹を試むる火の如き苦を非常事の如くして爾曹試とする勿れ、却つてキリストの苦に與かるを以て歡樂とすべし」。(彼前二。二二―二三)

●實物教育 一人の兒童をして盆を持たしめ、誰か其上に書物か何かを、深山に積重ねしめるのです。すると盆が餘り重くなつて持てなくなります。其時、(一) 書物なきを減らすか、(二) 或は士官が手を貸して支へてやれば、かの兒童は之を支へて居ることが出来るのです。之と同じく神は或は私共の試練の荷を減らして下さるか、又は荷は其儘であるが、特別の御助をあたへかして支

へ給ふのであります。 第二十三課 (十二月八日) ペテロと野心家 (使徒行傳八。五一―五二)

●説話の概略 緒言 今日サマリヤの邑に往き、如何に神の光が其暗黒なる邑に輝つたかを學びましよう。 一、シモンの前生涯 (五一―二節) ビリポが此邑の人々に説教しました、彼等は喜んで救ひの話を聞き之を信じました。此に現れて居ますシモンは魔術師でありまして、人々に對し自らを大なる者となつて居つた者です、多分守護札の如きものを賣つて居つたのでしよう。

二、シモン表面上救はる、(二二、二三節) 單純な改心者等の愕きと喜樂を想像しなさい。此のシモンも亦悔改座に出て、救を求め、公然入隊式をうけた。そして今はつねにビリポと共にあつて、其事を見習ふて居る。確かに偉い説教者になるだろう」と單純な人々は考へました。

三、シモンの慾な願望(二四一九)
 ペテロとヨハネが此小隊を訪問いたしました。改心者等を一層大なる自由と生命と光に導きました。之を觀て居つたシモンは如何いたしましたか。聖靈の御働を己の心に願ひましたか。否、たゞ使徒等の有つて居ました能力が欲しかつたのであります。『そうなれば亦奮の通り人民の上に權威を執ることが出来るのだ。此不思議な能力が欲しい。金銭さへやれば、よもや否や』
 といふまいと思ふて何か御符でも買ふつもりで、金を出して使徒等に求めました。
 四、シモン心に於ては救はれて居らぬ(二〇一―二四節)
 ペテロは直にシモンの心を透徹しました。彼はたい表面に變化したので彼の心はまだ高慢で、利己的で且貪慾でありました。彼は如何にすべきか。悔改め、其惡精神を棄て、赦罪と清潔を神に呼求めねばならぬ、彼はなほ惡魔の鎖に縛られて居つたのであります。

●摘要

- 一、シモンの前生涯
- 二、シモン表面上變化す。

魔術師シモンの話を止めて、人の心につき次の四要點を教へよ、(一)私共の心は色が違ふてゐます、(二)其色は如何して知れますか、(三)心は色を變へることが出来ます、(四)イエスは其を變へて下さる。
 紙の色は何色ですか、白。毛の色は黒です。
 みなさんの心の色は何色でしょう。見えませんが、目には隠れて見えませんが、しかし或人の心は眞黒です或人は純白で又或人は半白半黒です。どうして判りますかそれは其人の言ふたり爲たりすることによりまして。若し男の子が虚言をいつたり、悪口をついたり、物を盗んだり又妹を打つたりするのを見ますと、其の子の心は眞黒―かと思ひます。又或は親切で正直で勇氣がありますと、其心は眞白―かと思ひます。然し黒い心も白くなる事が出来ます。誰がなさつて呉れるのでしょうか。

●金言

「凡て善樹は善果を結び惡樹は惡果を結べり、……是故に其果に由て之を知るべし」(馬太傳七。一七二〇)

●實物教訓

三、シモンの貪慾。
 四、シモン衷心は變化せず。
 ●重なる教訓
 我等が眞實に救はれた時には、我等の慾望も亦變化するものであります。

●應用

一、シモンは表面上の信者でありましたが、我儕は人を安りに審判してはなりません。すべて救主に來る者は歓迎し之を助け、彼等が聖靈の果を結ぶ爲め祈らねばなりません。
 (例) 一人の男が白耳義で悔改座に來ました。皆彼は弄み半分に來たと思ひました。それで誰も導いたしませんでした。彼は眞の兵士たることを眞實に以て證し後士官になりました。
 二、衷心正しくない人は必ず其願望によつて其願望するものであります。若し眞に救はれて居るならば其願望は一層救主の如くになりたいといふやうに現はれ、たい外部だけの變化せる者であれば、安逸を求め、人より好遇せられ、人の上に立つを求めるのであります。

●幼年の部

一、黒インキを浸した海綿をとり、兒童に示せ。シモンの如く、利己心、我儘、傲慢、貪慾で一杯になつて居る。
 二、白布をとり海綿を之で包め、シモンは他の改心者と同じ様に潔く善良に見せかけねばなりません。それで如何にいたしましたか。自分の貪慾心を包みました神は悔改めよと教へ給ひましたが彼は聴きません。
 三、海綿を隠しなさい、インキは布の外まで浸み出て來る。ア、之は何ですか、シモンの罪な心が外にあらはれました、ペテロは何と告げましたか。『お前の面被は役に立たない、お前の心は間違つて居る。』(布をとり海綿を示せ)

第二十四課 (十二月十五日)

一軒の悲しき家庭

●説話の概略

緒言 今日ペテロが市から市へと至る所人々を助け祝福し強めて廻つて居る所の話であります。
 一、一病室に於て。

(イ) 主の如く憐憫あり。(三二一-三三節)
ペテロはルツダといふ小邑に來ました、そして神を愛せる人々に遭ひ、又病める者を尋ねました。如何にも主に似た仕方ではありませんか、凡て悲しみ患める者に助と慰をあたへんと願ひました。

(ロ) 主を信す。(三四節)
彼は憐れなアイチアと語りました、そしてイエスは地上にのみした時と同じく彼はなほ病人を癒す能力を持つて居給ふ故、此病氣の治ることを信じました。

(ハ) 主によりて勝を得る。(三五節)
アイチアは救主の能力により癒されました。人々は大笑きました、彼等は來りて觀、尋ね、喜びました。イエスは直に生きて居給ふのである、彼等に此奇跡を行はれたのである。

二、死床に於て。
ヨツバはルツダから十哩程の所にある港、タピタは小隊のお母さんと呼ばれて居ましたが死にました。イエスが地上に居ましたならば必ず主を呼び奉るべき所、今は使徒を招きました。

(イ) 主に等しき事をなす。(三六一-三三九節)
二人の使がペテロに早く来て下さいと招きに参りました彼は直に馳付けました。ペテロには如何にいたしましたか。主のなさつたやうに、哭者を外に出し、丁度ヤイロの娘を主が甦らせ給ふた時と同じやうにいたしました。

(ロ) 主の如く祈禱する。(四〇節)
彼は屍と共に只一人室に残り、救主に語りました。主が其所にいますこと及び其能力は前と變りないことを覺えて祈りました。

(ハ) 主によりて勝利を得る。(四二-四三節)
ペテロはたゞ祈りましたのみならず、主の爲さつた如く屍に向ひ「起きよ」と命じました。彼女は起きました。彼は其手をとり、彼女を立たしめ、友を呼び、女を彼等にあたへました。

一、一病室に於て
二、死床に於て
(イ) 主の如く憐憫あり (イ) 主に等しき事をなす
(ロ) 主を信す (ロ) 主の如く祈禱する

● 摘要

(一) 主によりて勝を得る (二) 主によりて勝を得る

● 主なる教訓

私共は凡て困つて居る人々の靈魂に救主の愛と力を與へなければなりません、私共もペテロの如く救主に愛を以て事へますならば悲しみのある家庭に救主の御恵みを齎らすことが出来ます。

● 應用

一、私共が救主の精神を持つて居りますならば、私共も自分で助けてあげる人がなきかと尋ねて行つて凡て病人や困つて居る人々に慰を齎らすことでありませぬ。

(例) 數年前に寒きの非常に烈しかった冬のこき、參謀總長は本營の士官等をロンドンの貧民窟に遣はして貧乏で石炭の無い人々を慰れてさせなさいました。餘り雪が積つて居るので車が通りませぬから士官の方々は石炭を籠で運んで賣って居る貧乏な人々に持つて行つて上げました。憐れなキリスト様の御精神が其僕等の間に働いて居るのを見るのであります。

二、私共も病人や困つて居る人々を見る時にペテロと同じくイエス様は今も昔の如くさう云ふ人々を癒し

助け給ふことが出来るのであると云ふことを憶えて居るやうに致しませう。

(例) 一人の死に掛けて居る青年が救世軍士官が訪問した時に改心しました。次の時に訪問しました時戸をあけては入りませぬ、お母さんが「あなたは私の息子は心を神様にさよ上げたのでありますよ仰つて下さいました、本營でござります、何故かお申せは誠に前とは變りませんでした、これは誠に利己的で自分の事ばかり他の人の事を思ひやる心はありませぬでした、今では出来るだけ私に面倒を掛けぬやうに出来るだけ私を二階へ呼ばぬやうに心掛けるやう成りました。」と申されました。

三、救主は弱い病身の身體を丈夫になさることも出来ますが又弱つて居る靈魂をも丈夫にして下さることも出来るのであります。臆病な人が勇氣のある人となり力のない人が強い人となる時にイエス様の聖名が崇められ人々がイエス様を信するのであります。四、タピタが死んで居る所へ行つて此の大切な事に當りました時ペテロは「イエス様ならば如何かなさるであらうか」と考へました、私共も毎日どんな小さな事を致しまする時にも同じ様に考へねばなりません、私共が極小さい事柄にまでもイエス様の足跡に従ふて行きますならばペテロと同じく大なる勝を得ることがあ

ります。

(例) チリーと云ふ娘は生命掛けになつて焼けて居る家の中より自分の妹を救出しました。後に友達は「何故そんな勇氣が出ましたか」と尋ねます。次の如くに答へました「私は救を受けましたからは何も『若しイエス様は私の赤坊の妹を守りなされば如何なるであらうか』と自分で考へて居りました。それでそれから私火の燃え上つて居るのを見ました時に直ぐに、私はイエス様であつたら火の中に飛び込んで赤坊を救ひ出しなされるに迷ひないと思ひ付きました。それ故に私はそうしたのであります。」

五、此の死人を甦らす力を以て今でも私共の死體を甦らして下さるごいふ譯ではありませぬ、けれども神様の僕等が死したる靈魂を生かす力を今も持つて居ることでありませぬ、イエス様はドルカスに申されたと同じく救を受けて居ない人々に「立て」と仰しやつて前よりも善い更に幸福な生涯に入れと示して下さるのであります。

(註) 新約聖書の中に度々寡婦のことが出て居る(雅各書一〇二七)のは寡婦といふものは既に氣の毒な困難な生活をして居る者だからであります。その時分には女の人は自分で生活を立てて行くことが出来ず家族を養ふて居る主人が死れば寡婦は何もすることが出来ず誠にあはれなものとなるのであります。あなたは死んだ時にも一度此の世に生き歸らせて置かれる程の價値のある世渡をなされて居ります。又はあなたが死してしまつたら生き

て居つたからして餘り變りのないやうな世渡をして居なされるのでせう。

●幼年の部

今日はドルカスのお話をして下さい、子供さん達もドルカスを見て居りました。親切な婦人でござりまして死にました時に皆大層悲しみました。ペテロはその小さな家に参りまして生きて居る間に遣つた物を見せられました。ペテロは祈りました。神様はドルカスを今一度生き歸らせて下さいました。大層喜んで神様にお願いを申上げました。

ドルカスから學ぶ教訓が色々あります。手が器用で物を拵らえたり繕ふたりすることを知つて居りました。心は親切で何時でも如何すれば誰か他の人を助けることが出来るかと考へて居りました。どんな小さい事でも決しておろそかにいたしませんでした。小切でも無駄にはせずに子供さんの着物に拵えるやうに致し、少しの時間たりともあなたに過さずに何か役に立つことを爲すやうに致しました。私共も皆その通りを致しませう。

●金言

「よろこびの音信をつたへ平和をつげ善おとづれをつたへ救をつげシオンに向ひてなんぢの神はすべ治めたまふといふ者の足は山上にありていかに美しきかな」(以賽亞書五十二〇七)

●繪解

なにヨリイエス様第一に
こゝロより他を其の次に
わがこゝろ一番あことにして
まなびあそんで仕事せば
何時も何處にもヨロコビ
はあり。

これは黒板に書いて見せて
誦讀させて下さい、句調が
よく出来て居りますから、
此處にペテロが慰みある家
庭を幸福に同時に自分も
幸福を感じました秘傳があ
ります之を教して下さい。

第二十五課 (十二月二十二日)

門戸開放

(使徒行傳十〇九―三十五、十一〇―十五―十八)

●説話の概略

結言 今日にはペテロは道筋の變つた方へ出て参ります。始めには友達などには理が分りませんでしたが聖靈の

御導を受けて居つたのであります。御覽なさい主は一歩一歩行くべき道を示し給ひます。

組長への注意 コルチリオスの話は太極よい話ですけれども主にペテロのお話をするやうにして下さい、主は再びペテロに天國の鍵を渡し給ふて今やペテロは御助によりて救の門戸を大なる異教の世界に開放したのであります。

一、ヨツバに於けるペテロ。

前の日曜の學課ではペテロは奇跡を行いました、今日は町を出で、皮工の家に住んでその後は神様の御導を待つて居るのであります。

(註) 皮工と云へばユダヤ人から嫌はれ賤まれて居りました、皮工は市の城の中で住むことを許されて居りませんでした。ペテロの謙遜な精神を見ることが出来ます、一番賤しい宿を以て満足して居るのであります。

(イ) 奇妙な幻 (九一―九六) 此の器物は大なる布の如くその中に色々の動物あり、ペテロはユダヤ人故聖き

獸の他は食ふ譯には行きませぬ、奇妙な御命令を受けまして理が解せられませぬ、何といふ理でせうか。

(ロ) 天より来る御命令 (十七―二十) ペテロは平な屋根の上で此の奇妙な夢のことを考へて居ります。そうして居る時に家の入口に参つたのは誰でせうか、三人の

知りもせぬ餘所の人がペテロを尋ねて参りましたのであります。聖霊は何と仰せになりますか、下へおりて此の人々の行く所へ一緒について行くのであります。

(註) 二十一節から二十三節までを抜き其語文を短く話して下さい。

二、カイザリアに於けるペテロ。

(イ) ロマ人の家に入る (二十四-二十七) ロマの役人コルネリウス此の人は僕を遣つてペテロを迎へに行かしましたのですが前に平伏して彼の御使としてペテロを崇めました、ペテロはその崇拝は神様ばかり受けるべきものである故之を拒げました。今立派な大きな家に入る所です、澤山の人が待つて居ります、皆此ロマ人の友人親戚でありますが眞の神様を信じて居らぬ人が澤山あります。

(註) ペテロはユダヤ人です。云へば他教國の人の家に入つてはならぬ。つたのですが此の度は主は彼に「萬國の民に行け」との廣い御命令なされたのであります。

(ロ) 幻の意味は之也 (二十八-三十五) ペテロは何を見聞しますか、澤山の熱心になつて集まつて来て居ります、天使が來つてペテロを迎へに行けと命令なすつ

たのであると云ふ事を聞きます、皆ハッキリと分つてきました、此がこの大きな布の下つて居つた意味なのであります、今は世界中何れの國人も賤しいとか汚れて居るといつて區別はないのであります、凡ての人の爲めに主は死に給ふたのであります。

二、エルサレムに於けるペテロ。

其次にロマ人の家で如何なることが起つたかといふ方は止めて置いてその代りにペテロがエルサレムへ歸つた時に友達に事の有様を告げて居る方を考へることに致しませう、其の中の或る人々はロマ人の家に行つたといふて費めました (十一〇-三三) それでペテロは事實をお話しました、その時にペテロが申しました言葉をその儘を讀みませう。

(イ) 此處にもペンテコステ (五十一-五十七) ペテロがイエス様のこと、その死と甦りとのこと、又其の名を信する者が受ける救ひのことを話しました。時にそのロマ人も友人達も皆熱心に耳を傾けて聞きましたことを告げました、彼が話して居た時にこんなこと起りましたのでしたか。ペンテコステの日に二階座敷の時と同じく

聖霊が降りましたのでペテロは驚いたのであります。此の大なる賜物を他教國の人までが受けられるとは知らなかつたのです、これを見たペテロは何を思ひ出しましたか、それは救主の仰つた御言葉であります。此の時にその意味が分りました、今は萬國の民は皆自由に救を受けることが出来るのであるといふことを悟りました。

(ロ) 使徒等彼と共に喜ぶ (十八) 批評家や小言家や使徒等を何と申しましたか。不平の言葉は跡なくなりました。汝が他教の國人の家に行つたのは正しいことではありません。悔改と救の事が萬國の民に賜はるのであることは汝の云ふ通りであるといふことがモー分りました」と申しました。

摘要

- 一、ヨツパに於けるペテロ。
(イ) 奇妙な幻。
(ロ) 天よりの御命令。
二、カイザリアに於けるペテロ。
(イ) ロマ人の家に入る。

主なる教訓

イエスキリスト様を信することには何處の國人も區別ありません。イエス様は萬民の爲めにお死に下さつたのでありますから、此の善き福音を自分だけ聞て居るのでなくてペテロの如くまだ暗の中に居る人々に知らせることは私共の義務であります。

應用

一、時々私共の生涯にも何か自分では理解の出來ぬやうなことの起ることがあります。幻を見た時にペテロが待つて考へて居つて神様がその意味を教えて下さる時には何時でも學ぶやうに致しませう。

(例) ロバート、マフオットと云ふ人が宣教師でありました時に南アフリカの政府は内地には入り込むことを許可してくれませぬから、仕方なしに英國の植民地の近くに止まつて居りました。失望はしましたけれどもその爲めに時間をあたに過ぎさせずに和蘭語を習ひました。後になつて始めに行きたいと思ふて居た所に往くことを許されました。

「神様は一番よく物事を知ってお出でになります。私は忍耐云云云と和蘭語を習はなければならぬのであります。若し両方共習ふて置きませんでしたら此處へ来る事が出来ませんんだのであります」さ申しました。

二、三人の人が参りました時にペテロはその人々が何しに來たのか又何處から來たのかを知りませんでした。けれども神様は一足く次から次へと善きやうに教へ導いて下さつたのであります。その通り私共も主に従ふ心がありますならば次から次へと爲すべき務めを明らかに分るやうして下さるのであります。

(例) 私共の大將もその通りであります。大將が下層の人々に近づく爲めに凡てを棄てましたその時には神様は何んな大きなことを大將に爲さしめ給ふ御用意をなまつて居なかつたのか知らなかつたのであります。只次から次へと自分の爲すべき務を知つたのみでありました。

(註) ペテロは屋上から降りて助けて來た人々に遇はなければならなかつたのです。そうしたら神様の御旨を知ることが出来たのであります。屋根の上で居て下りもせずには思ひがつて居ることは無用なことであります。私共も神様に従ひ始めればその時に神様が私共に何をなさせようと思つて御出になるのか云ふ御旨を學ぶのであります。

三、萬國の人皆同じであつて區別はないのであると思ふことはこれは神様に教へて戴かねば出来ないのであります。生れつきの性質から云へば私共は自分の家

た時にヒツクリかへされてしまふことなく喜んで譯を説明致しましたことを御覽なさい、あなたもこうするのであるといふことがお分りになりましたか。

(例) 小隊候補生が小隊候補生保護者から前日の行爲について親しく尋ねられました。憤りまして「何だ僕を疑ふのか、だまつて居てやれ譯を話せば話されるのだけれども僕は云はないのだ」と、これはキリスト様の御精神ではありませぬ。

(註) ペテロは「云ふたやうなものですか」「私は何でせうか、マイア國の民に門戸を開放し尙時に何うして器構として使はれて居る私が之に逆ふことが出来ませうか。」

五、悔改と救の御恵が萬國の民に賜はるといふことではなかつたならば私共はユダヤ人ではなくて異邦人でありますから今日救はれて居ることは出来なかつたことでもあります。この事を又他の人々にも及ぼして萬國の民の爲めの救を萬民が受けるやう力めませう。

(例) 貧乏人の住つて居る町があつてその人々は食へるものもなく困つて居ります。役人さんが一軒の家を築まして「何處其所で食物をあり餘る程渡しますから隣近所の人々にも知らせ上げて上げなさい」と申しましたのに、急いで行つて自分の家の者が食へる分だけ買つて來て食へることを止めて近所の人々に知らせ、その人達も満腹するやうと町へふれて廻ることはしませぬとしたらどうせうか、所が自分達だけイエス様から御救と御恵を戴て他の人々にも知らせないで構はずに居るならばこれと同じことではありませぬか、克己通問や感謝祭

の人や自分の町の人や自分の國の人は一番好きでその他の人々は私共の組でないやうに思ふのであります。けれども神様の御恵みによりまして皮膚の色や言葉は異ふてもそんなことには拘りなしに何の人も皆自分の兄弟であると思ふのであります。

(例) 黒色人の間に住んで居る白人の人々は黒色人が白人よりも劣つて居るやうに思ひ又扱つて居りましたがブリスタク少將はキリストの精神を以て働き印度人を自分の兄弟のやうに取扱ひました。高い裁判官の位を辭職しました後に自分も印度人のやうになつて、洗足にて歩き印度服を着し同じ食物を食ひ出來得るやうに印度の習慣を取用するやうにし、斯くの如くにして驚く程に印度人から愛せられるやうになりました。

(註) 餘り六ヶしいことを考へねペテロには神様が思ふてお出でなされる意味を皆分つたといふのであります。以後は何の人も成しさいさ汚れて居るさういふ區別をしてはならぬといふことが分りました。(二十八)

我等は誰れも皆この教訓を學んで置く必要がござります、これは神様から教へて戴かねばならぬのであつて私共はその儘では此の心を持つて居るのではありませぬ。

(例) 救世軍兵士の子供さんは酒呑の人の子供さんを汚れて居ると思はす少年兵の人は他の子供さんを成しさいと思はぬことでもあります。四、ペテロはエルサレムに歸つた時戦友から責められ

●幼年の部

に金を集めするのには教を知らぬ人々に教を知らせる爲めの費用を得るのであります。

一、テーブルの端を海際と考へ、ボール紙か何かで皮エシモンの屋根の平な家を拵へて海の近くにテーブルの端の方に建て、下さいコルチリヤの家とする爲に同じ形の大きなものを一方の端に建て、長い紙片で海に近く道をつけ、何か玩具の兵隊さんか人形か短かい木切か又は紙で拵えたものでも何でも眞直ぐに立つものを人にして下さい。

二、ペテロが三人の使と共に出て行く所、貧しい宿から大きな立派な家に来ました所、集會のこと及その結果等をお話して下さい、ペテロの此度學びました教訓をハツキリとお教へ下さい。

三、イエス様は色の黒い人であらうか白人であらうか

黄色人種であらうが金持であらうが貧乏な人であらうがそんな區別なく凡ての人の爲めに同様に死に下さつたのであります、あなたは顔色の異ふ人やあなた程の善い着物を着て居らぬ人や又小さい家に住んで居る人やあなたほどに利巧でない人や酒呑む人や子供さんやあなたのお父様よりも救世軍の位の低い人の子供さん等を見下げるやうなことがあるのでせうか。

(例) 「僕のお父さんは大尉だ君のお父さんは兵士ではないか、わたくしは家へ歸る時にキーちゃんと一緒に歩くのはいやだわ、あんなキタナイ着物を着て居るのですもの」などと云ふてはならぬ。

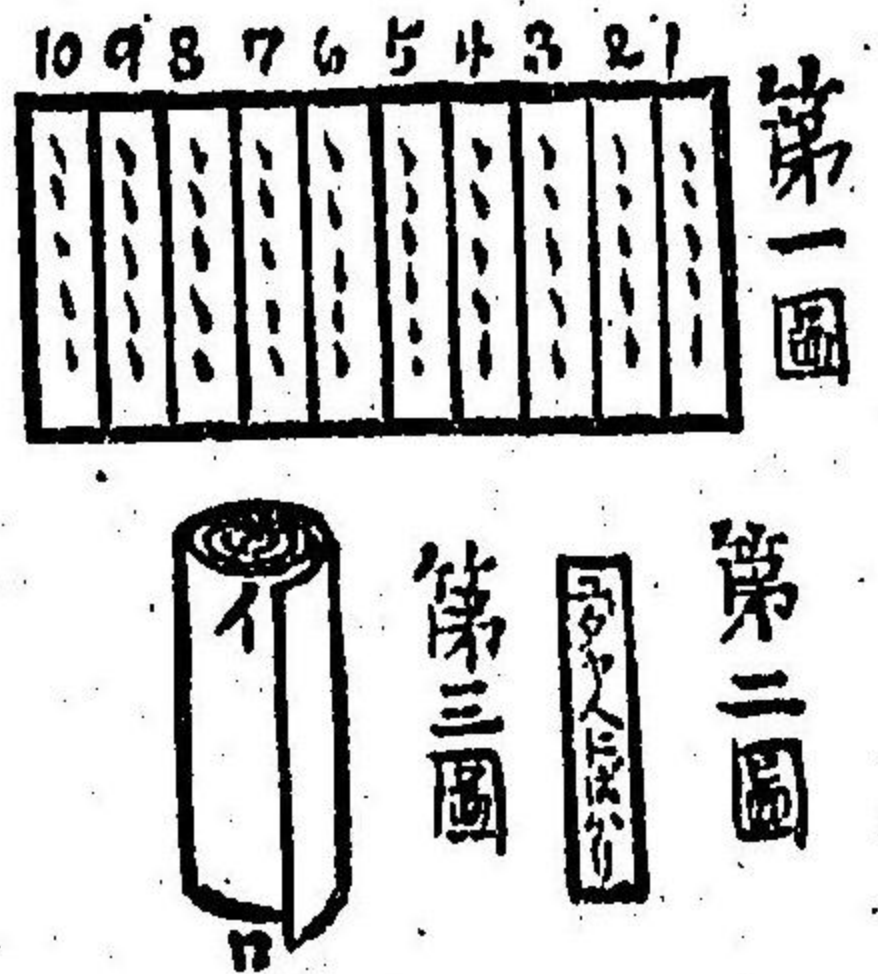
●金言

「我まことに神は偏らざる者にして何の國民にしても神を敬ひ義を行ふ者は其聖旨に適ふことを悟る」
(使徒行傳十〇三十四、三十五)

●實物教育

前以て少し厚い紙を用意して置いて第一圖のやうに罫を引いて十、十二に分ち縦に各の部分に支那人印度人日本人アメリカ人イギリス人ドイツ人アラビヤ人など異なつた人種の名を書き入れて下さつて、其次に第二圖の如くに長さは第一圖の紙の巾と同じ位の紙にハッキリと「ユダヤ人」ばかりと書き第一圖の紙を巻いて第三圖の如くにし(イ)から(ロ)へ長々に第二圖の紙を糊を張り付けて下さい、それを持つて行つて初めにペテロはまだユダヤ人ばかり救を

傳へて居りましたことを話して下さい、(此の時に巻紙を取上げて)「ユダヤ人ばかりと書いてあるのを見せませう、今度は神は異邦人にも之を知らせよとの召を賜はりました(此の時に張り付けてある紙片をナイフで切り取れば)「ユダヤ人」の傳はるのを待つて居るのであることを教へて下さい、此紙は出来るだけ大きいものを用ゐるやうにして指し示し乍ら此の紙は二ツや三ツの團の人だけのものではなくて福音は初めはユダヤ人ばかり傳へられましたけれども今は私共と同様に支



那人も朝鮮人も北海道のアイヌ人も臺灣の生蕃も此の救を受けられるのであります、そこで私共も此の福音を自分ばかりのものにはせず、次に次へて傳へて行くことが私共の義務であります。

第二十六課 (十二月二十九日(午前))
ペテロ助け出さる (決心日)

(使徒行傳十二〇一、一七)

●説話の概畧

緒言 前の週は異教の世界に向つて救の門戸を廣く開放しました所でしたが今日は神様は獄の門戸を開放してペテロを中から助け出して下さる所であります。

注意 今日の手帳は八月二十五日のように横に用ゐる積りに出来て居るので其時の注意書は同じく此處にも當嵌まるのです、救はれて居らぬ少年青年は色々の點から考へて善くペテロが獄に入られて居るのと同じ居ります、そしてまたペテロが助け出されました方法も皆さん救を受けて居るから自由になれる方法をよく分るやうに説明して居るのであります、此の集會の司會者は救はれて居らぬ子供さんは直ちに救を受けるやう助けることを目的としなければなりません。

一、ペテロの入獄、
心悪しきヘロデ王は使徒ヤコブの首を刎ねてからまだ間はないのですが今又尙ほ彼の基督信者を憎むで居るユダヤの上に立つ人々の機嫌を取る爲めにペテロを捕へて獄に入れ、逾越節に際して又此のペテロをも殺さんと目論んだのであります。

此の時のペテロの状態について三つの事を考へませう(イ) 如何にもする能はず(二) 四ヘロデ王は自分の獄に入れて居る人々を好いたやうにする權があります、獄の壁は堅固であるし而もペテロは中央の方の地下室に閉ぢ込められて居ります、十六人の兵隊が番をして居つて、交代に番をする一遍に四人宛その中二人は地下室の外で二人は内でペテロに着いて居るのであります。

(ロ) 信者が祈つて呉れました(五) 戦友達も助け出すことが出来ませぬ。又言葉をかけてたり歌を歌ふてあげたりして勵ましてあげることさへも出来ませぬ。けれども大層ペテロの事を心配致しまして一緒にマリヤの家に集まりました此の家は大抵の他の家よりは廣かつたからです、そこでペテロの爲めに終夜の祈禱を致しました。

(六) 鎖で捕られて居ります(六) ペテロを番して居る兵隊さんは寝りました、けれどもペテロの手を一本宛二人の右の手に鎖で繋いで居りますからペテロが動けば寝て居つても鎖の音で目が覚めます、若し逃げやうとするやうなことがあれば起きて剣を抜いて押へることが出来るといふやうになつて居ります。

二、ペテロ助け出さる
神様はペテロを助け出さんとなされましたがこれには主の使者なる天使もペテロも神様御自身も銘々果たすべき役目がございます。

(イ) 天使(即ち神様の使者)の役目(七) 突然天使

がペテロの居る室に入り来りその室に光が照渡りまし
た、脇を拵いてペテロの目を醒まし速かに起きよと命
じました、起きたならば直ぐに次の事を命じやうと待
つて居ります。

(ロ) ペテロの役目(八、九)ペテロはまだ半分寝つて居
るといふやうな具合で何事が起つたのやら本當によく
分りませぬ、けれども鎖で縛られて居るのを見て駄目
だとか助けは番人の目を醒ますからいけないとかなど
申さないで速かに従ひました、誠に不思議にも鎖が
離れました番人も目を醒ましませぬ、天使の言葉の通
りに帯も結び外部の着物を着け草履をはき天使の後
について地下室の戸口を通りぬけ二人の兵隊さんを過
ぎ越して真直ぐに大きな鐵門にまで参りました此處を
通れば獄から出て市へ行けるのです、此處が一番六ヶ
しい所です、如何して此處を通ぬけることが出来ませ
う。

した、出来ないとい見えたことを神様が爲給ひまし
た。
三、ペテロ自由を得たり、
天使は町を一筋だけ案内をして呉れましてペテロを
後へ残して行きました、ペテロは周囲を見廻はして一
體自分は何處に来て居るのか見ました、如何しますで
せうか。
(イ) 氣は確になる(十二)今迄は何だか夢のやうであ
りましたが今は氣は確かになつて神様に感謝する心が
満ちました。
(ロ) 祈禱會に加はる(二十一)ペテロの事を心配し
て居まする人々を直ちに尋ねて行きますのは當然な
ことで又自然なことでもあります、戸を叩きましたけれ
ども暫の間は誰れも出て来ませぬ故戸口に立つて居ら
ねばなりませんでしたけれども誰れか来て明けて呉れ
る迄叩いて居りました。
(ハ) 證言を立てたり(十七)皆んなの注意を引く爲め
に手をあげて、不思議な具合に助け出されたのですと
萬事お話し申しました。

●摘要

- 一、ペテロの入獄
 - (イ) 如何ともする能はず。
 - (ロ) 信者が祈つて呉れました。
 - (ハ) 鎖で縛られて居ります。
- 二、ペテロ助け出さる。
 - (イ) 主の使者の役目。
 - (ロ) ペテロの役目。
 - (ハ) 神様の役目。
- 三、ペテロ自由を得たり。
 - (イ) 氣は確になる。
 - (ロ) 祈禱會に加はる。
 - (ハ) 證言を立てたり。

●主なる教訓

私共が神様を信じて頼り御命令に服従しますならば
神様は私共を銘々悪魔の力より助出して救ふて下さ
るのであります。

●應用

一、救はれて居らぬ人は獄に入れられしペテロの如し

- (イ) 自ら如何ともする能はず、自分の力によりて強
敵なる悪魔の力より離れることが出来ませぬ。
- (ロ) 信者が祈つて呉れます、先生や今此處に来て
居る戦友や又は父母や友人が又救主御自身が祈つて居
て呉れます。
- (ハ) 鎖で縛られて居ります、前に降参してしまつて
居りまする悪い習慣これが其人が正しいことをしやう
とする時に妨を致します。
- 二、悪魔の力より救はるゝ道はペテロが助け出されし時
の如し、
(イ) 神様の使者の役目、罪人の心を照らし助けて如
何にすべきかを救へて呉れます。
- (ロ) 罪人自身の役目、御命令に服従する爲めに速か
に決心して立ちあがつてイエス様に罪をお詫びし罪を棄
てイエス様の血が罪を潔めて下さることを信すること
であります。
- (ハ) 神様の役目、悪魔の力から助け出して靈魂を入
れかへて下さるのであります、これは神様でなくば誰
も出来ぬことであります。

三、神様に救はれし人は自由を得たるペテロの如し。
 (イ) 氣が確かになる、神様の聖霊が救はれて居ることが確かであると致へて下さいます。
 (ロ) 祈禱會に加はると自然と神様を信じて居る人々に近づくとやうになります。
 (ハ) 證言を立てる、神様が私にこんなことをして下さいましたと喜んで出来るだけ早速又何時でも機會さへあれば證言を立てるのであります。
 (最後の警告) 今此處に居なさる救はれて居ません子供さん達は神様の御助がなければ如何にもすることが出来ませぬ、悪魔の力に捕へられ悪い習慣の鎖に縛られて居ります、私共神様は救はれて居りませぬ子供さん達に決心して「速かに起つて」今來てイエス様にお祈りしなさいと申します、その通りに従ふて致しませぬならば神様は今朝今から助けて下さつて色々六ヶしいこともありませうけれども救を受けさせて下さるのではありません、救はれて居らぬ方は今前へお出なさい祈つて救ふて頂くやうに致しませう。

●幼年の部

此の學課は箱庭には極く適して居ります。
 獄の壁と地下室とはポール紙で、鐵の門は開閉の出来るやうにして拵らへることが出来ます。
 神様は私共が困つて居る時には神様に御助け下さいと願ふことをお望みになります、それと一緒に又私共が自分の方では自分が助かる様に出来るだけの事を皆致すことをお望みになります、ペテロが主の使者の命令に従ひ又信者の人々が祈りましたやうに致すのであります。

(例) エルシーと云ふ娘さんがお母さんに人形の前垂を拵らへて下さいと申しました、お母さんが「拵えてあげませう」と申されましたけれどもエルシーも助けをしなければならぬのであります、お母さんはエルシーに布の入つた袋を持つてきて善き善きな布を拵つて箱の所へしまつて置いて袋を取るやうにとお言付けになりました、袋を取ることは學校で習ふて知つて居りましたので、前垂の布の織ち方や縫ひ方の六ヶしい所などは皆お母さんがやつて下さいました、そう云ふ風にして前垂が直きに出来てしまいました、エルシーが自分の出来ることを致しお母さんが残りの所をして下さつたのであります。

●金言

「エホバわれに荷をそゞぎて貧乏ものに福音をのべ傳ふることをゆたな我をつかはして心の傷める者を

いやし俘囚にゆるしをつげ縛められたるものに解放をつげしめたまふなり」(以賽亞書六十二〇一)

●實物教育

若しお望みならば各階の進むと共に次の如き實物教育を動作によりてなすことが出来ます、又ペテロの鎖から獄に光が照る所ペテロの草履鐵の門マリアの戸口で戸を叩いて居る所など話の進むと共に簡單な繪を黒板に貼くやうにすることも出来ます。

一、ペテロの入獄

(一) 一人の男の子、ペテロとなり上衣を着ず草履をはかずに(腰掛を掴んで拵えた)獄の地下室に入れ置き四人の子供さんが番人となりその中二人はペテロの兩側に二人は地下室の外で番して居ります、こんな具合に悪魔に捕はられて居る子供さんがあります。
 (二) 一方の隅の方に少し許りの子供さんを集めて置いて祈禱會をして居る所を教えます。
 (三) ペテロの職友は此れより他にペテロを助ける道はなかつたのであります、私共もこんな風に祈によつて他の人を助けることも出来ます。

(三) ペテロを番人に縛りつけて居る紐を見せして下さい。皆眠つて居ります真黒暗の中でそんなになつて居るのに所つたつて何の役に立つものでせうか、眞に固く捕へて居るのであります。

二、ペテロ助け出さる、

(一) 一人の男の子、ペテロが天使となつて火を燈した蠟燭を持ち乍ら入り來り、ペテロの所へ來て鎖を切り起さよと申します(ペテロはその通り従ふ)

三、ペテロ自由を得たり、

こう云ふ具合に神様は集會の中で私共の所へお出になります。私共自分ばこんなものであると云ふことを示し、次に私共を縛つて居る鎖を切つて私共を救ふて下さいます、けれども之はまた救のホンの手始めばかりであります。
 (一) 天使が「上衣を着て草履をはけよ」と申せばペテロはその通り致します、「外衣を着て従ひ來れよ」と申しました。眠むつて居る番人を通り越しました。ローで本當に自由になりましたので、否、否、まだであります。勿論それは進行きではありますけれども、この通り私共も集會から家に歸つた時には神様の御命令に従ふてそれより前に致して居りましたと同じ小さな仕事を止めてはならぬのであります、それよりも此の度は前と違ふた善い心を持つて致すのであります。
 (三) 今二人は大きな鐵門の所へやつて來ました、(若し出来れば骨組を拵らえて紙をその上に張り付けて紐を拵き手で動かさずとも紐を引けば開閉の出来るやうに拵らえて下さい)待つたり、通ることも出来ます、けれども神様は開き給ふ(紐を引く)サー道が開けました。

その通り私共の方で何事も柔順に従ふて致しますならば神様は私共の爲めに大きなことを爲して下さいるのであります。

(一) ペテロは獄の外へ出まして、天使は行つてしまひました。天使は唯本當に入用な時だけ来て助けて下さるやうにして下さつたのであります。今は自由になつた、お分りなされたので、誠に喜んで居ります。どんなにして、どんなに自由になつたのでせうか、神様は使者がペテロ自身がお祈りその役目を果たして、これが出来たのであります。その通り私共も時々は大丈夫救はれたさ知る迄はよく神様に従ふて愛すべきことをなして幾日も信仰を續けて居らばならぬことがあります、併し最後には悪魔は過ぎ去つて、私共は本當に救を受け

るのであります。

(二) ペテロは念いで参りました、何處へでせう、敵人の方へですか、否え、神様を信じて居る人々の所へであります、そして所禱會に加はりました。

皆が「救はれた事を皆を話して下さい」と喜んで叫び乍らペテロになつて居る男の子供さんを歓迎いたします。

人が本當に救れた時には親友達と一緒に居る事が好きになります。

(三) 若しペテロが此の時「私は耻かしいから何も申しません」と申したら誠に變な人であると言はればなりません、けれどもペテロは直ぐに證言を立て皆之を聞いて居ります。此の時ペテロは立あがつて「私は獄に入つて居りました今は救はれて居ります、榮光は神様にあり」と自分の言葉で申します。

四、警告

あなたはどんな所に居られますか、眞暗な所に鎖でつながれて居るものでせうか。又そんな小さなことはしないのであると従ふことを拒んで居るのでせうか。又は何か大きな難門があるからと引込んで居るのでせうか。あなたは何れの方でせうか。今日ペテロに見做つてイエス様が救ふて下さらうとして居なされる通りにして頂いて自由を得るやうに致しなさい。

(悔改の座)

第二十七課 (十二月二十九日)午後

使徒ペテロの働 (質問日)

緒言 今日(今日)の質問はペテロがイエス様の使徒として働きました間に起りました事柄について致すのであります。

す、學課の順に従ふて書き記しました。

(註) 今日の質問日(今日)の前の第十四課の時と同様に集會を司つて頂くのであります。第二第四及第十は幼年の部に適す。

第一、カルバリ山に行かず (第十五課)

○何よりも大切な出来事(出来事)のあつた時にペテロは行きませんでしたか、それは何時の時でしたか。(イエス様が十字架に釘られて死にました時)

○ペテロは聞くこと出来ませんでしたか、イエス様の最期(最後)の言葉は何でしたか。(事究む)

○弟子達の居りませぬ時に誰れがイエス様の屍を葬りましたのですか。(アリマタヤのヨセフとニコデモ)

○イエス様の死がペテロの爲め又私共の爲めに何んな利益を買ひ取つたのですか。(それによりて)私共が御の赦を受けることが出来るやうになりましたか)

第二、墓場(墓場)と二階座敷(第十六課)

○イエス様の墓場に行つて屍のないのを見た時ペテロはどんな間違(まちが)ひをいたしましたか(待つて居らずに行つてしまいました)

○何れも此の日其後にペテロに賜はりました大きな特權は何ででしたか(イエスがペテロの獨り居る時に願はれ給ふたことでありました)

○同じ晩に弟子達が二階座敷に居りました所へお出になつたのはなぜなでせう又その方がお見せになつたものは何でしたか。(イエス様があります、傷の跡をお見せになりました)

○贈り給ふた救主は何時も私共にどんな御恩を下さるのでせうか(生ける希望と喜び)

第三、公けに主を愛することを告白す (第十七課)

○公けに主を愛することを告白す (第十七課)

○公けに主を愛することを告白す (第十七課)

○救主は弟子等の漁をして居るのを御覽になりました時に如何してお助け下さいましたか(魚を海山漁る道をお教へ下さいました)

○皆陸へ上つて参りました時にイエス様は何を御用意なさつて置いて下さつて居りましたか(暖かい朝御飯)

○イエス様がペテロに三度も何をも尋ねになりましたか(我を愛するや)

○イエス様が如何なることをなしてその愛を願はせまペテロに仰せになりましたか(キリスト様の羔羊を飼ふこと)

○此によりてどんな教訓を學びますか(善き行爲によつてイエス様を愛して居るさいふことを願はすことです)

第四、イエス様の昇天(第十八課)

○イエス様が行つてお終ひになる前に最後に弟子等に下さつた約束は何でしたか(聖靈を受けるさいふこと)

○キリスト様は何處で弟子等と別になりましたか(橄欖山で)

○イエス様が見えなくなつて後に二人の天使が何と弟子等に申しましたか(何日か又一度イエス様は雲に乗つてお出でになること)

○今地上ではイエス様は何處にお住ひなさるのでせうか(凡てイエス様を愛する人の心にお住ひなさるのであります)

第五、三千人の改心(第十九課)

○弟子等が十日間二階座敷で祈つて待つた終りに何んなことがありましたか(聖靈彼等の上に降り彼等不思議に諸國の方言を語りました)

○その時エルサレムで何んな事が起りましたか(多くの人が群がり驚き集まつてペテロの説教を聞き聞きました)

○その結果は如何でしたか(三千人が改心しました)

○弟子等にして下さつたのですか、聖靈は私共に何んなことをして下さるのでせうか(私共の心に聖き勇氣を満たせて下さいます)

第六、跛者を癒す(第二十課)

○貧しき跛者(貧乏な跛子)の人がペテロとヨハネに何を願ひしましたか(お金を下さいと申しました)

○ペテロはその人に何をあげましたか(イエス様の名によつて癒してあげました)

○群衆が此の奇跡を不思議がりしました時に何とペテロは説明いたしましたか(此はイエス様の御力によつて出来たのでせうと申しました)

○此の奇跡から何んなことを學ばねばなりませんか(救主は今目に見えませんが今日も此の地上にて事を爲す力を有して居給ふこととあります)

第七、虚言者を許す(第二十一課)

○多くの新らしき改心者はその家や地面を如何しましたか(之を賣てその金を神様の働の爲めに献げました)

○アナニアとサッピラが何んな具合に悪いことをしましたのでせうか(地面を賣つて得たお金の半程を偽つて取つて置かうと二人で首ひ合はせて居りましたのであります)

○何んな罰を受けましたか(ペテロに叱られ神様に辱れて死しました)

○此の話は私共に何を教へますか(神様は虚言者を嫌ひ虚言者を許し給ふこととあります)

第八、神様は困難の時に助け給ふ也(第二十二課)

○使徒等が役人等に獄へ入れられました時に何んな事が起りましたか(天使に助けられて前の如く説教しました)

○ペテロは役人等の前で何をしましたか(大膽にイエス様のことを説教しました)

○其の結果は如何でしたか(使徒等は打たれて後自由にされました)
○私共が困つて居る時に神様が助け下さる二ツの仕方は何やです
か(困難の中より助け出して下さるか又は困難を受け乍ら而も大丈
夫であるやうに支へ下さるか)の二ツであります)

第九、偽の改心者に悔改を勧む(第二十三課)

○サマリヤの大祭司バルの時に救はれて居る偽人を云ふた人は誰
ですか(シモンと云ふ魔術師です)

○シモンの本心に改心して居らぬことが如何にして分りましたか(大
いなる力を得んが爲めに聖書を金で買はうとしました)

○ペテロはシモンに何を申しましたか(彼の心は正しくないと云ふこ
とを悔改めればならぬといふことでした)

○シモンの話から私共は何を學ぶべきですか(本心に改心して居る人
は心も日々の生涯も變化して居るのであるといふことです)

第十、二軒の家庭を幸福にする(第二十四課)

○ペテロはアイチアに如何にしてあげましたか(主の名によりて癩癩
を癒してあげました)

○ドルカスの死にました時如何故人が悲しみましたか(ドルカスは生
きて居る間に人に親切な行を致し貧しき人々に食物を捧げて上げ
たりなごしたからであります)

○ペテロはドルカスに何をしておきましたか(所つてあげて生きさせ
てあげました)

○ペテロが二軒の家で致した行から私共は何を學ぶべきでせうか(困
つて居る凡ての人がイエスキリストの愛と力を受けるやう助けること)

第十一、ローマ人の家に入る(第二十五課)

○何故ペテロは喜んでローマ人の家に入るやうになりましたか(不思議

な如き聖書の御命令がありましたから)

○ペテロを迎へる爲めに使を遣はしたる百人の長の名は何と云ひま
したか(コルネリヤ)

○コルネリヤの家でどんなことが起りましたか(待つて居る群衆の人
々にペテロは説教をし聖書が人々の上に降りました)

○ペテロは此の事により何んな教訓を學びましたか(イエスキリスト
を信するこゝには何の國の民も同じであつて區別のないといふこ
と)

第十二、ペテロ獄より助け出さる(第二十六課)

○今朝決心日の學課でペテロの状態をどんな風に習ひましたか(獄で
縛られ、獄に入れられ、兵隊が番をして居り、明日は殺されること
ふ所でありました)

○如何にして助け出されたのですか(天使の命する儘に従ひました時に
神様は鎖を切り脱門を開いて下さいました)

○其次にペテロは如何しましたか(祈禱會に行き神様が助出して下さ
つた事を話しました)

○私共の爲めになる教訓は何ですか(私共が神様を信じて頼り御命令
に従へば神様は私共を聖霊の力より救出して下さいます)

主なる教訓

神様は使徒ペテロを助け給ふた如く私共をもお助け
下さつて日々恵に成長するやうにして下さるのであり
ます、今日の學課によりペテロが勇氣柔和信仰謙遜な
ご徳が成長してだん／＼イエスキリストのやうになつて來た
と云ふことが分ります、私共も神様にお願ひして御

助を賜ふ諸々同じ様になり斯の如くしてペテロが死ぬ
る少し前に書きました最後の言葉の通りを實際に行ふ
べきであります(金言集)

金言

「なんぢら益我々の主なる救主イエスキリストを
知んこと、その恩恵を知んことを務むべし願くば榮光
今も後も彼に歸して窮なからんことをアーメン(彼得
後書三〇十八)

實物教育

學課の順に従ひて概略を歌に作りましたから質問の進むと共に黒板
に一條宛を書き下まつて終りに一同「讃道唱歌の譜」で歌ふやうにし
て下さい。

使徒ペテロ

- 一、カルバリ山に行かずして 墓場と二階に参りたる
 - 二、三千人は改心し 獄を出で、また野 戦
 - 三、シモンの心いまして 二軒の家をさいはひし
- 救の道はローマ人に 獄の中に主の使者

助言

此學課を有てる組長へ

これは英國のクラプトンに於て參謀總長によりて整まれたる
少年軍下士官會の折の覺書より取つたものである。

上、汝自身

- 一、汝の役目は大にして又聖きものである。
- 二、汝の受持てる兒童を保護する天使でなくてはならぬ。汝は汝の小
さき一組の小隊長である。
- 三、汝の學課心を用ゐて用意せよ。
- 四、親切にせよ。
- 五、公平にせよ。
- 六、兒童を訪問せよ。

七、**兒童に手紙を送れ。**

子供は手紙を大層有りがたく思ふものである。誕生日や病氣の時や餘所へ行つた時などに送つてあげる一本の手紙なり葉書なりは何れも何時迄も消えぬ印象を子供の心に殘す、知れぬのである。

八、**汝の兒童が虚飾に陥らぬやう心掛けよ。**

服裝に於て又見なりに於て、教へると共に汝自ら實行を以て世俗は神の大敵であることを認めて居るのであるといふことを示す手本とならねばならぬ。

九、**命令を數を少なくせよ。**

されども與へるほどの命令は必ず之を守らしめよ。

十、**自分の失敗より學べ。**

これはシクツつたと思ふ時には何故であるかと自分で考へ、その失敗の眞の理由を見付け出すならば次からは成功するやうな法を發見するこゝであらうと思ふ。

下、**汝の教ふる兒童**

一、**兒童の性質に適するやう教へよ。**

若し臆病な又感じ易い子供であるならば其の子供には地獄のことを話さぬやうにし、又神様を恐ろしき方の如くに思はせぬやう注意せねばならぬ。

それとは反對に我儘な性質の子供であるならば罪の結果の如何なるものであるかを示し神様の義しき御方であることを學ばしめねばならぬ。何故聖書にそんなに澤山の種類の教へ一杯にあるかと云ふ理由は此れなので色々性質の異つた各々の人々に適合させる爲である。

二、**兒童の理解力に應じて教へよ。**

如何に上手に話しても兒童に分らぬやうでは折角のことが無になつてしまふのである。

三、**兒童を働かせよ。**

兒童の五感即ち彼等の目耳手又彼等の趣味を働かしめつゝ教へよ。

四、**兒童を獎勵して何か爲さしめよ。**

實物教育にある雛形を造つて持來らしめるとか、少年兵の旬探し又は聖書問題、短文宿題等に答案を出さしめよ。

五、**兒童に考へさせよ。**

多くの兒童は怠惰であるから考へなければならぬやう仕向けられなければ考へることをせないのである。昔云ふて終ふよりは今何を話さうとして居るのであるかと考へ出さしめる方がズットよいのである。

六、**質問の仕方を學べ、又繰返して教へることを恐るな。**

如何にして彼等を考へしめめる如き問を掛けこれに對する答を得べきかを學べ、何れ程分つて居るかは上手に質問して見るに限る、又繰返して眞理を教へる外に善く覺えさせる道はない、殊に金言など。

明治四十五年七月十一日印刷
明治四十五年七月十三日發行

發行兼印刷人

編輯人

發行所

印刷所

七 東京市京橋區銀座三丁目十一番地
ヘンリー、ホッダ

東京市京橋區銀座三丁目十一番地

山 東京市京橋區銀座三丁目十一番地

救世軍日本々營

横濱市山下町八十一番地

福音印刷合資會社

267

906

